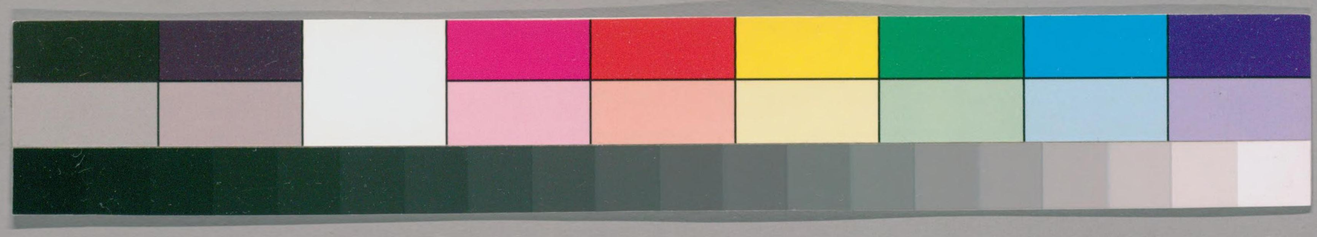


江戸名所図會

巻三

七

839
20
57

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

江戸名所圖會卷之三

根岸信輔氏寄贈
曽山文庫

天璣之部目録

永田馬場日吉山王神社
成田下総守長泰舊地
第六天祠
平川天満宮
貝塚
栖岸院
寅藥師如来
千平観世音 秦川猪 当本尊
清水坂 清水谷 柳の井
富士見坂 玉川の澁
洞井小路
澁池 白山祠 葵ヶ岡
弓海上人 誕生島
梯田
霊南坂 澁見坂 江戸見坂
一本松
梯ヶ井 若菓の井
麻布善福寺 菊王権現 麻島清水 杖銀杏 寺宝
氷川明神社
七佛藥師堂
霞山稲荷祠
鶴日観音
子安藥師如来
祥雲禅寺
廣尾毘沙門堂 光孝天皇御陵 石燈籠
廣尾原
廣尾水車
土筆原 雪沢の里
鷺森神明宮
氷川明神社雷電宮
三鈷坂
松秀寺 日限地蔵 当
白金高野寺 東西本殿 西二ヶ院
覚林寺清正公社
奥雲院 生飡観音
梅ヶ菜屋
荒城天満宮
英一蝶墓

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

寶晋齋其角墓　二本榎覚心寺　清林寺　兼敬寺　上行寺　圓志寺

英林院の圖　正覚院　高野山　高ちなり　丹生高野明社　三沽松　天王殿　選佛場　雉子宮

元三大師堂　袖ろ磯　瑞聖寺　佛殿　勅学寮　鐘樓　木犀　経蔵　牌堂

白銀妙見堂　鎌作観音堂　誕生八幡宮　行人坂　役若塚　又百羅漢

明王院　子安観音　兵戈天　夕日の忌　富士見菓肆　太皷橋

蟠龍寺岩窟辨財天　安養院寐釋迦堂

蛸薬師堂　同恵不動堂　別当澁泉寺　八幡宮　早尾権現　石不動　本地大日如来　結神祠　秋葉権現　稲荷祠　名産館屋　本堂　恵比須大恵祠　稲荷祠　古洋天祠　役小角　六所明神　経蔵　地蔵尊　天満宮　三佛堂　荒神宮　東昌寺

鐘樓　水神宮　開山堂　十羅刹女祠　疱瘡神　地蔵堂　樓門　愛染明王　太子堂　虚空蔵堂　栗島明神　観音堂　獨鈷の滋　大行事権現　太神宮　遮軍神祠　石地蔵尊　勢至堂　鷲居の松　本堂　恵比須大恵祠　稲荷祠　古洋天祠　役小角　六所明神　虚無僧寺

大鳥明神社　金毘羅権現社　子代ゟ磯　純京　観　長泉律院

祐天寺　鐘樓　二王門　榎木　圓光大師堂　開山廟　経蔵　寺宝　泳陀堂　碑文谷法華寺

観音堂　二王門　碑文谷八幡宮　奥澤淨真寺　世小九品佛といふ　本堂　地蔵尊

開山珂碩上人像　開山廟　星の井　曼荼羅堂　鐘樓　中品堂　樓門　上品堂　寺宝　下品堂　開山略傳　開山堂

大平山　満願寺廣澤先生之墓　赤坂御門

赤坂氷川明神社　古呂坂天神社　龍泉寺　一木辨天堂

淨土寺　専修寺　一木原　種徳寺精聖無意墓

今井古城址　赤根山　圓通寺舊跡　玉窓寺

鳳岡寺　梅窓院泰平観音堂　羅漢堂　楔地蔵尊　鯀鐘　百済稲荷　拾ひ様　虚空蔵堂

海蔵寺　熊野権現社　心見観音堂　若光寺　信州若光寺　宿寺

観音堂　斤候塚　笄橋　澁谷長者墳墓

通明観　長谷寺　澁谷氷川明神社　宝泉寺

金王麻呂守佛観音　鶴ゟ谷　朝霧ゟ瀧

澁谷八幡宮　矢拾観音　金王様　子安菓師　什宝　金王麻呂影堂

同産湯水　河磯高重宅旧址　姉尾光景旧館地　弱繋松

甘露水　玉池　神仙水　富士見坂　富士見橋

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

道玄坂
土筆塚
北澤淺島明神社
若宮八幡宮 田中氏之祠
常盤橋
吉良氏古城趾 富士見松
弦巻郷
氷川明神社
古澤院
小見村除蝮蛇神符
江戸遠山守喬候地
稲毛重成墓
長森稲荷社
大師穴
不動撞現社
稲毛藥師堂 新向石
楊明神社 右樹斬倒後遷座
詮戸宿
小杉御殿地
田谷
汐干觀世音
肉藤重宿
一行院
遊女の松 寂光寺境内
子ノ谷八幡宮
代太楊
布多天神社
妙樂寺七面山
十三塚
同神廟
最明寺
羽黒權現社
鬼子母神堂
篠寺
天龍寺 一里塚
吾妻堤
龍岩寺 庭中笠松
代々木野八幡宮 給無松
鬼子母神堂
法圓寺 藥師堂
不動撞現社
山王撞現社
半頭天王社
忍原
大宗寺 二番目
古佛永阨銅像
仙壽院 新日暮
舟田
大戸明神社
最源寺
丸子渡口
成行寺 鬼子母神 撰川
田谷大木戸
駿河の松
子ノ谷大神宮
千駄谷觀音堂
鞦韆松
布多の里
狗ノ入道田畑地
杉山明神社
駒場野 清澤松
氷川明神社
子明神社
圓禪寺
常光寺
馬寧沢喬跡
天滿宮
去我苦塚
豪德禪寺 新井氏墓碑 慶緣藥師 慶安二山之碑
宮坂八幡宮
世田谷八幡宮
幕刀先生義賢之墓 右林宮 岡村木光松
慶元寺
壽若寺 痛藥師
泉龍寺 靈泉 經塚
升形山
雲ノ坂
長森稲荷社
駒場野 清澤松
氷川明神社
天滿宮
馬寧沢喬跡
常光寺
去我苦塚
龍華山永安寺 右林宮 岡村木光松
慶元寺
壽若寺 痛藥師
泉龍寺 靈泉 經塚
升形山
雲ノ坂
藥師堂
天神の森
氷川明神社
廣福寺
飯富山 七面富士 淨岡祠
藥師堂
駒場野 清澤松
氷川明神社
子明神社
圓禪寺
常光寺
去我苦塚
天滿宮
馬寧沢喬跡
豪德禪寺 新井氏墓碑 慶緣藥師 慶安二山之碑
宮坂八幡宮
世田谷八幡宮
幕刀先生義賢之墓 右林宮 岡村木光松
龍華山永安寺
慶元寺
壽若寺 痛藥師
泉龍寺 靈泉 經塚
升形山
雲ノ坂
藥師堂
天神の森
氷川明神社
廣福寺
飯富山 七面富士 淨岡祠
藥師堂
駒場野 清澤松
氷川明神社
子明神社
圓禪寺
常光寺
去我苦塚
天滿宮
馬寧沢喬跡
豪德禪寺 新井氏墓碑 慶緣藥師 慶安二山之碑
宮坂八幡宮
世田谷八幡宮
幕刀先生義賢之墓 右林宮 岡村木光松
龍華山永安寺
慶元寺
壽若寺 痛藥師
泉龍寺 靈泉 經塚
升形山
雲ノ坂
藥師堂
天神の森
氷川明神社
廣福寺
飯富山 七面富士 淨岡祠
藥師堂

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

里の稲荷

深大寺 元三大師堂 深砂大王社

羅波田彈正城址 同伝藍田跡

忘ろ窪 牛頭天王

紫艸

石塚社 御宮 競馬 淫連樹 神樂 天下泰平神事 田面神事

安養寺

善明寺

代小川 樺古樹

青渭神社

大鳥石 要石 同新向池 鍬立石

深大寺城址

富士見塚

傾城ろ松

逃水

府中驛舍

隨身門 大神事同図 宮之姫社 御田植神事同図

六所宮御旅所

武蔵國造兄武

津保宮

陣街道

神道

青渭堤

鐘樓 福滿童子祠 茶師堂 二王門 古尾 二王門田跡 阿弥陀坂 阿弥陀堂

国分寺 国分寺村炭竈

武蔵野

八幡宮 撞の正

六所明神社 本地堂 阿弥陀侯像 馬市 天下泰平神事 神輿庫 護摩堂 小祭

御田

日命殿鈹田跡

分倍河原 首塚 胴塚

小野宮村

小野牧

毘沙門天右洋天社 泉大寺蕎麦 二王門田跡 阿弥陀堂

武蔵聖翁

瀧の社

神輿庫

護摩堂

鳥札

小祭

鈔光院 什宝

是政村

三千人塚

小聖神社舊址

稱名寺

高安禪寺 秀郎具綱 鈍喜堂 無量硯の井

谷保天神社 老壁の清水 道武 鈴原具社

菱原道武鈴原舊鈹地

日野津

諸訪社 暖石 熱門 二王門 鼻井

平惟盛之墓

百葉八幡宮

小山田冥田址 関戸

皆切坂

小澤小太郎居宅旧地

穴沢天神社

青沼明神社

普濟禪寺 六面塔

多磨川

木切澤

松蓮禪寺 古經筒 八重見

一宮大明神社

延命寺

赤坂臺

小沢城址

壽福禪寺 本堂 指月橋 鐘 餐霞谷 弥陀堂 法寺宮 採茉阜 方丈 攫霧松

弥勒寺 津戸 親継墓

本地堂

假家坂

八幡宮

同獵鮎

番匠谷 升井

一本榎

城山

平臺 黒金清松

威光寺

向の岡

清水立場

安樂寺

茅頼寺

高幡金剛寺不動堂

別旅明神

二王塚

横溝八郎墳墓

天守臺

明覺寺

國安明神祠

都筑の邑

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

展翼峰　沙間山　吐玉泉　法泉寺　茱師堂

日吉山王神社　永田馬場にあるも江戸第一の大社にして別當ハ天台宗僧正にして觀理院と号ス神主ハ樹下氏なり其餘社僧および社家巫女等數多あるも御祭禮ハ隔年六月十五日なりその行粧ハ初巻茅場町御旅所の条下に詳なり

本社　祭神　大宮　比叡の二宮小比叡大明神を勸請せ垂跡ハ國常立尊にして天地開闢第一の神なり茱師如来を本地佛とし

二宮　氣比宮を勸請せ垂跡ハ仲哀天皇にして應神天皇の御父なり聖觀世音菩薩を本地佛とし

三宮　客人宮を勸請す垂跡ハ伊弉冊尊にして白山妙理權現なり十一面觀世音菩薩を本地佛とし江戸名所記に第三にして下の七社の中王子宮本地ハ文珠大士なりとあり

古鰐口　昔ハ本社に掛てりとあるも今ハ右の方稲荷祠に掛てあり径一尺あまり其銘左の如し

敬白奉納山王權現御寶前鰐口大檀那直景

願主南仙房

武州豊島郡江戸館天正十四年丙戌十月廿五日

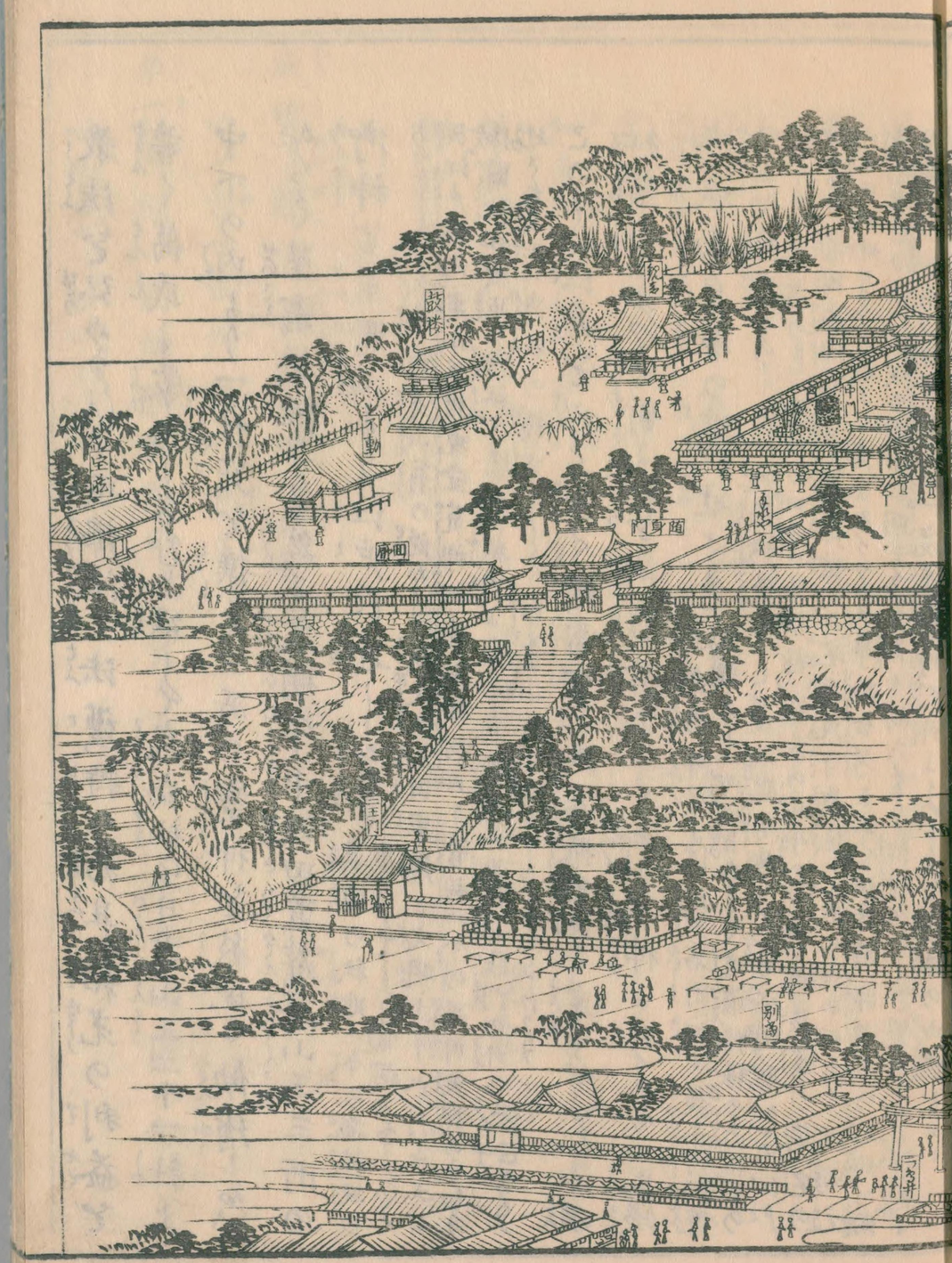
大田大和大工長瀬推名

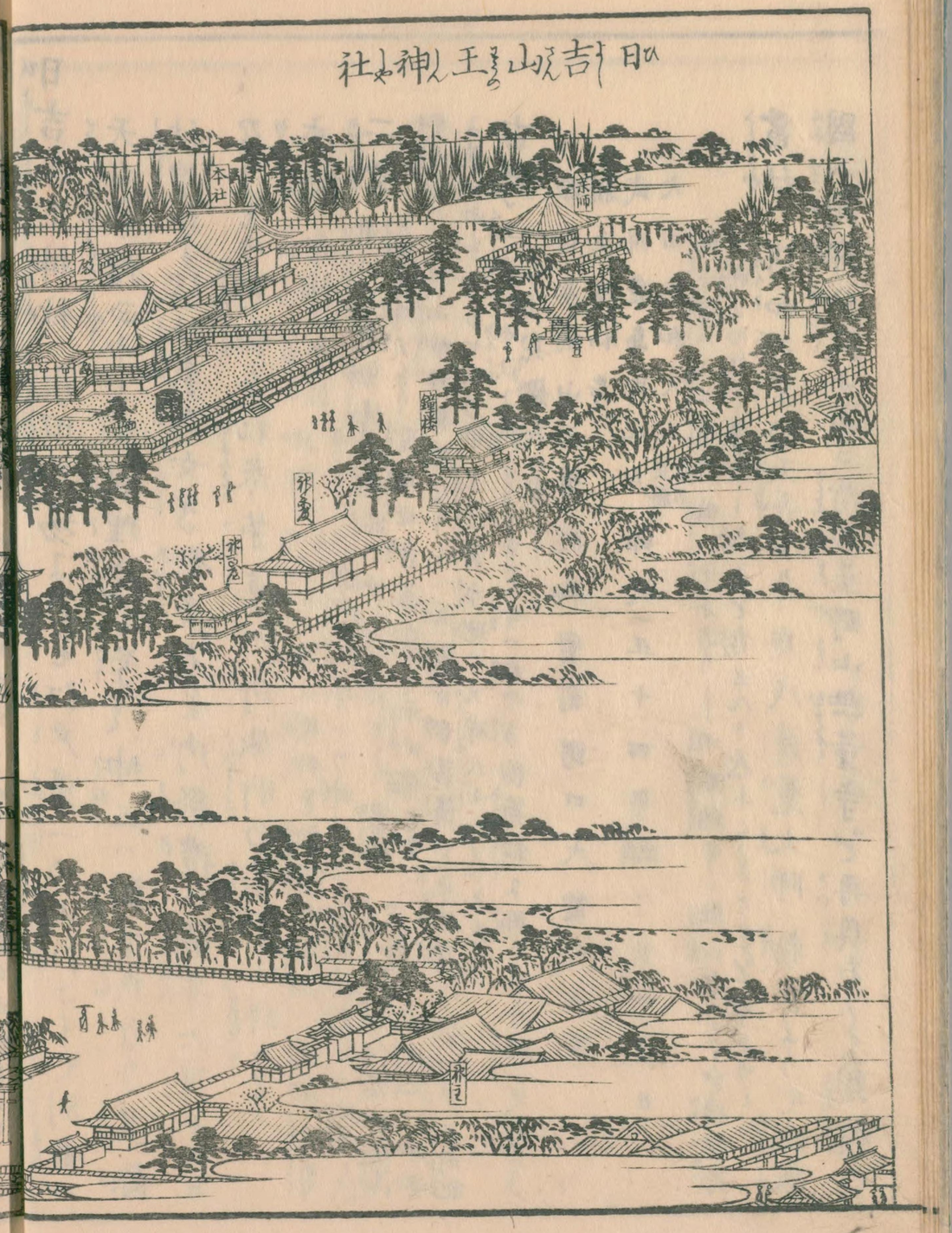
按に昔ハ山王宮江城の中にありし頃奉納せし鰐口なりしを後稲荷の祠にかけしなるべし古きを存せんとなるにこゝにこれを挙るのミ

當社ハ淳和天皇の天長七年庚戌慈覚大師勅によりて武藏國入間郡仙波にある所の星野山無量寺を再興ありて圓頓の

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

日吉山王神社





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

教法を弘めんがため頃佛法王法護持の為且ハ和光の利益を普く萬民よ蒙らしめむと欲して我立杣の日吉山王二十一社上中下の内より一社宛を撰ミ三所の靈神を彼地よ勸請ありかくて星霜を経ること久然よ文明年中太田道灌此山王三所の神を星野山より江戸に迁しまつる

大道寺友山翁の說なり我人云太田家譜よ文明十年六月十五日於江戸城内建山王權現堂荒神祠営永相祠云々営祠ハ今の平川天神のことなり

其頃の社地ハ今の梅林坂の営祠とぞ

淨國初の頃迄ハ両社とのみ御城内よありしを営祠ハ平川口陸門の外へ天正より迁されし山王ハ御城の鎮守とぞ

紅葉山よ迁座ありしと云

この頃江戸を以て永く御當家御居城の地よ定させられし頃

新よ社を御造営ありて御産神よあらしめたまふ

御城西見塚の地へ迁されしと

其年歴詳ならず

延徳年中

御社を城西よ再興修造ありしと云

此說未考へず

寛永明暦結縁のため三丙の江戸名所記よ後土御門院の勅願ありて江戸道灌の築給ふ三宅の内ありと

其の北今の三宅備後守殿宅の裏の坂ふ祠あり此所元ハ掃部頭殿の居館の南の坂の内ふ

又兼應三年甲午田祿の後溜池の築山勝地たるによりて

竟よ

台命ありて今の地へ迁座なりより江府第一の宮居となりぬ

宮社御造営ありしハ

兼應ハ明暦丁酉の歳田祿よりハ先の年号なり

此說證ともとるふべし或人云方治元年今の地へ迁るとハ

名勝志よ云く明暦三年當社を貝塚より

兼應三年當社を貝塚より今の地へ迁しなるとあれど

名勝志よ此地ハ元松平主殿頭殿宅の地なりと云

畫揀朱簾ハ地よ映せり

金殿玉樓ハ天よ輝き

和光同塵の利益浅からぬ内よも圓宗の教法を守ぬを外みを

鎮國利民の德を施しまふの殊更

御當家の御産土神として

御崇敬最厚く天下泰平國家安鎮の御祈祷永世よ怠らるゝなし

成田下總守長泰旧地　永田馬場

山王の隣丹羽家の地なりと

いふ古へ武州忍の城主なり

第六天祠　同所蔦松家の地あり

太田左金吾道灌の勸請ありといひつたふ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

平川天満宮　御城西麹町三丁目の南平川町より別當八天台宗わらく長松山龍眼寺と号け東叡山に屬せ

傳云當社八文明十年戊戌六月廿五日太田持資當國入間郡川越三芳野の天神を江戸城に勸請し數株の梅を栽ると云今の御城内平川の梅林坂と唱ふるハ其梅林の旧跡なり新安手簡に文明中太田道灌築れしとハ江戸城平河口の中營神の社上棟の文に文明十年戊戌六月廿五日と有之云く其後天正十八年　御入國の頃彼宮を平川口の外へ移さる故に平河の天神と唱へ來る支山翁云江戸御入府の節平川より貝塚へ迁さる故に貝塚の天神とも云といへり此故に今の麹町の地に至りても旧名を改めず猶社辺の町をも平河町と云

其後慶長に至り　御本丸御造營の頃竟に今の麹町の地を改めらるゝと云大道寺支山翁云く平河御門の外に平河町と云ふ町あり其平河町の内に藥師堂有て夫より今の麹町の方へ續き昔の甲州街道なり其別當天神の社を預る茅師堂のかくいふ迁地となるより麹町の辺へ引移し剰へ天神の社も共に移すと又縁記に麹町七丁目屋敷公用の地とあり八幡宮の小社ありしを天満宮の社地と定めくらめしと云今に至く旧地の名を改めず天満宮の社内に彼八幡宮も勸請しく文武両道を寛政七年修營ありく神殿清新なるを毎年二月廿五日營神

自画の神影をやけく諸人ゝ拜さしむ

梅

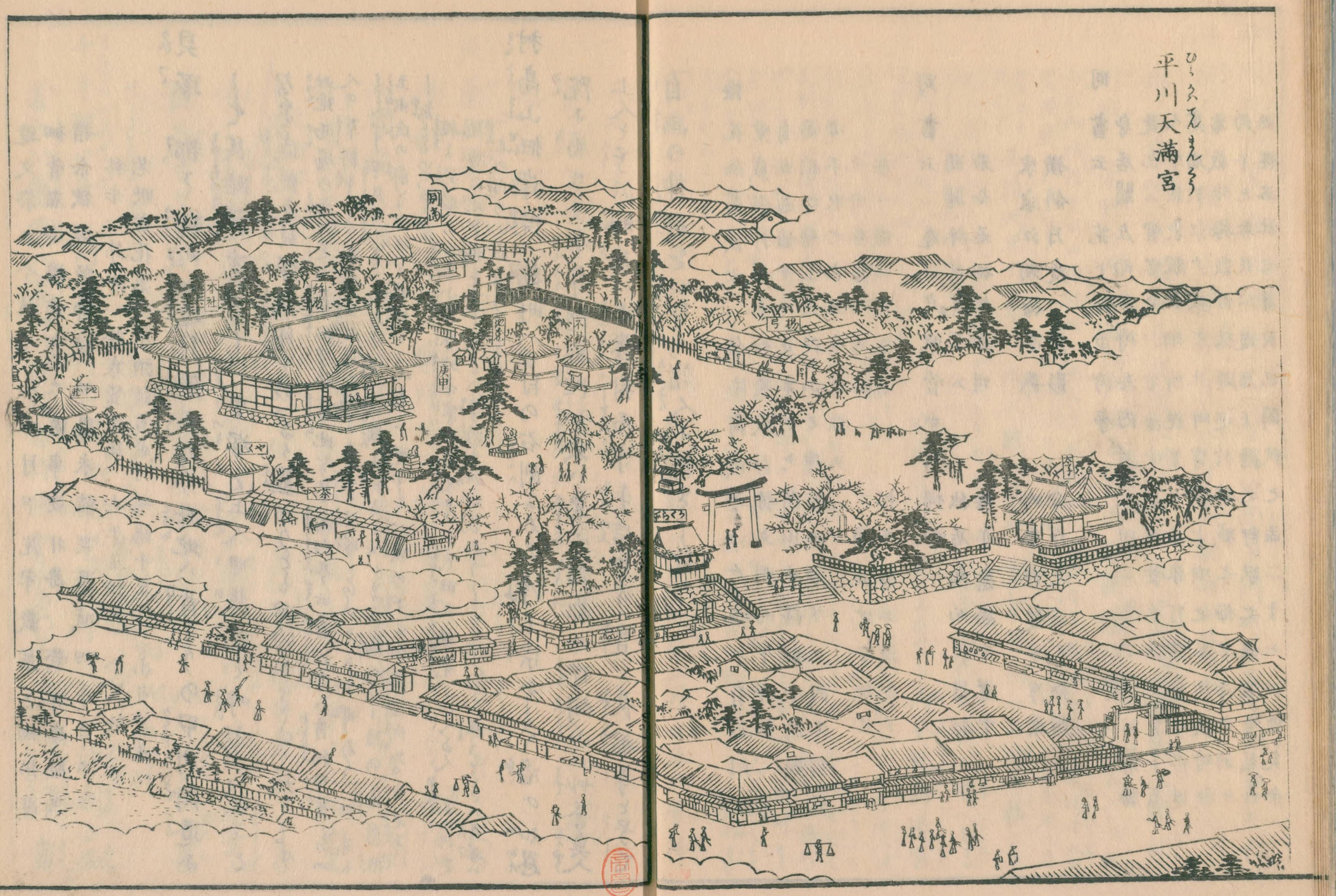
花無盡藏云　余比寓武之江戸城々有丞相祠堂裁柳拂不知幾數百株文明丙午仲春二十有五適值丑之晨宴也所少也謹賦小詩題壁上云

徑山之傳衣迺渺茫之說而國史丞相獨居南面牡丹紅芍藥此地亦栽君夢中傳法定焉有一株亦應云梅亦孤芳分作文公大極圖

同書云　遊江戸城菅丞相祠堂　閒閑評花甚不公若令丞相細分州　梅亦應編王者中

宋江湖梅亦孤　橫斜月瘦一枝影　吟香白髮老浮屠

同書云　花下晩步詩序　身居關左而名摶海内者太田二十石灌公靜勝是也公曾宴坐一室夢中見菅丞相其豈早有接哉公然來獻丞相所親筆畫像可謂靈夢也遂人建廟於江戸城之北畔寄數十頃之梅花海也前年鼓時鼓之梅花爛漫花前賦詩之講斯歌之丙午之春共公遊廟下詩之評之悔無洛社之著英也同秋之孟二十六公逝矣余



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

造文祭之今茲丁未正月下浣率數輩之緇侶徘
徊菅廟追憶前年之遊事豈非夢一覺邪感槩無
措余欲鼓旅棹旅岐陽未能果漫賦四十言云

移歩一笻瘦　餘寒驚度秔　去年丞相廟　今日故人非
老眼看花落　舉頭疑雪飛　岐陽千里外　山可笑遲帰

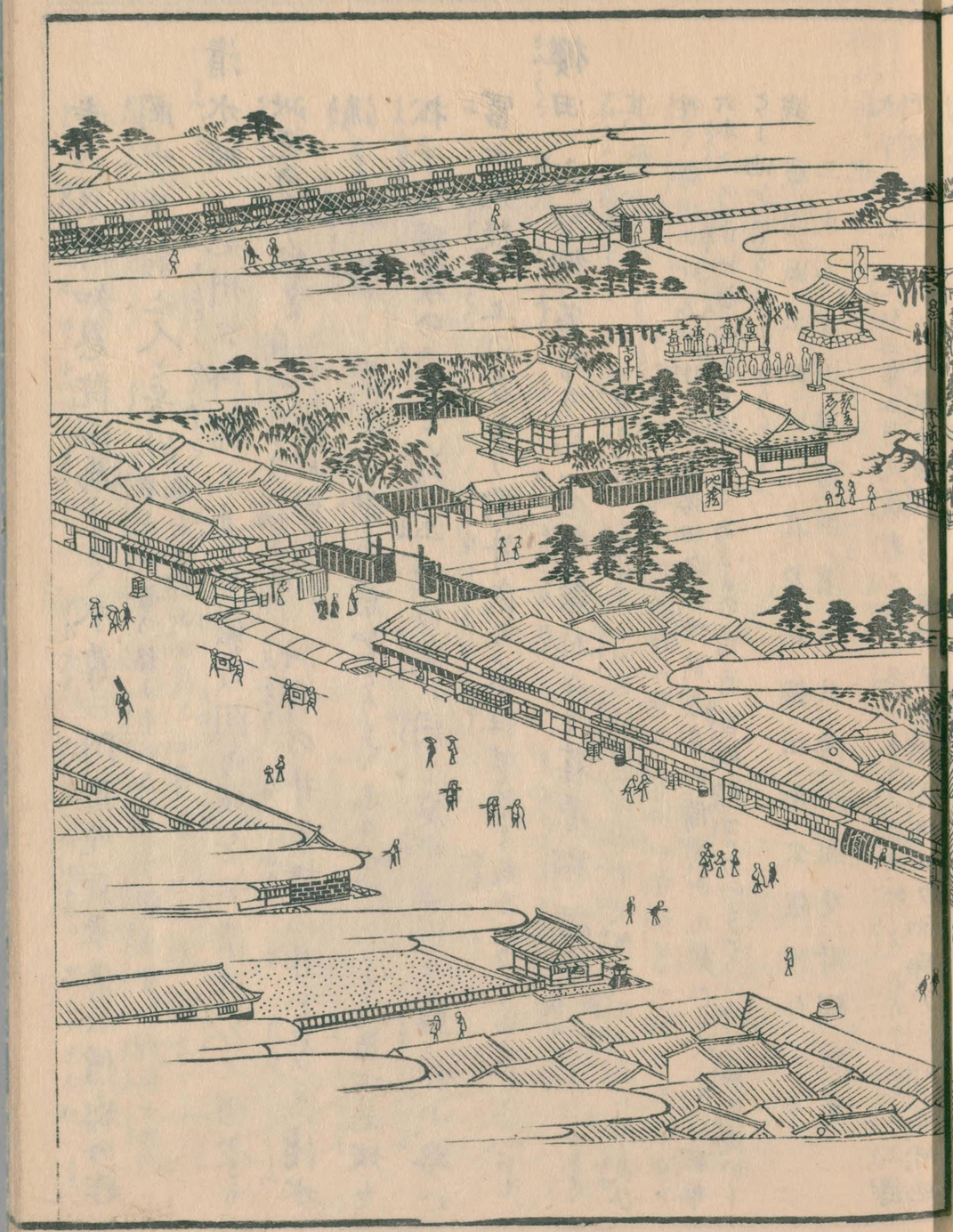
貝塚　都て麹町の辺孔總名なり此地ハ昔よりの甲州街道ゟ
一里塚を土人甲斐塚と呼あやまりなるべし其路傍ゟ
或説ゟ貝塚法印といへる墓ありともいひくさ〳〵なるよし
此地馬場の南ハ芝の青松寺の舊地なり南向亭云青松寺ハ青松甲斐とのゝ
人の草創やくく當時玉虫氏の邸よありを貝塚とゝ云くまた上ハ古俚あり今ハ八幡ゟ祀るとも
玉虫氏の前なる坂を貝坂ととゝうり一説ゟ此坂の下ゟ甲斐庄氏なる宅あり
一説ゟ貝塚の地名小田原北条家の古文書ゟ太田大膳亮といへる人一本の内ゟ
見塚の地を領ゟるとあるハ是ゟ此地名ありしく然るときハ貝塚ハ
一ゟの内の小名なりしと地ゟ

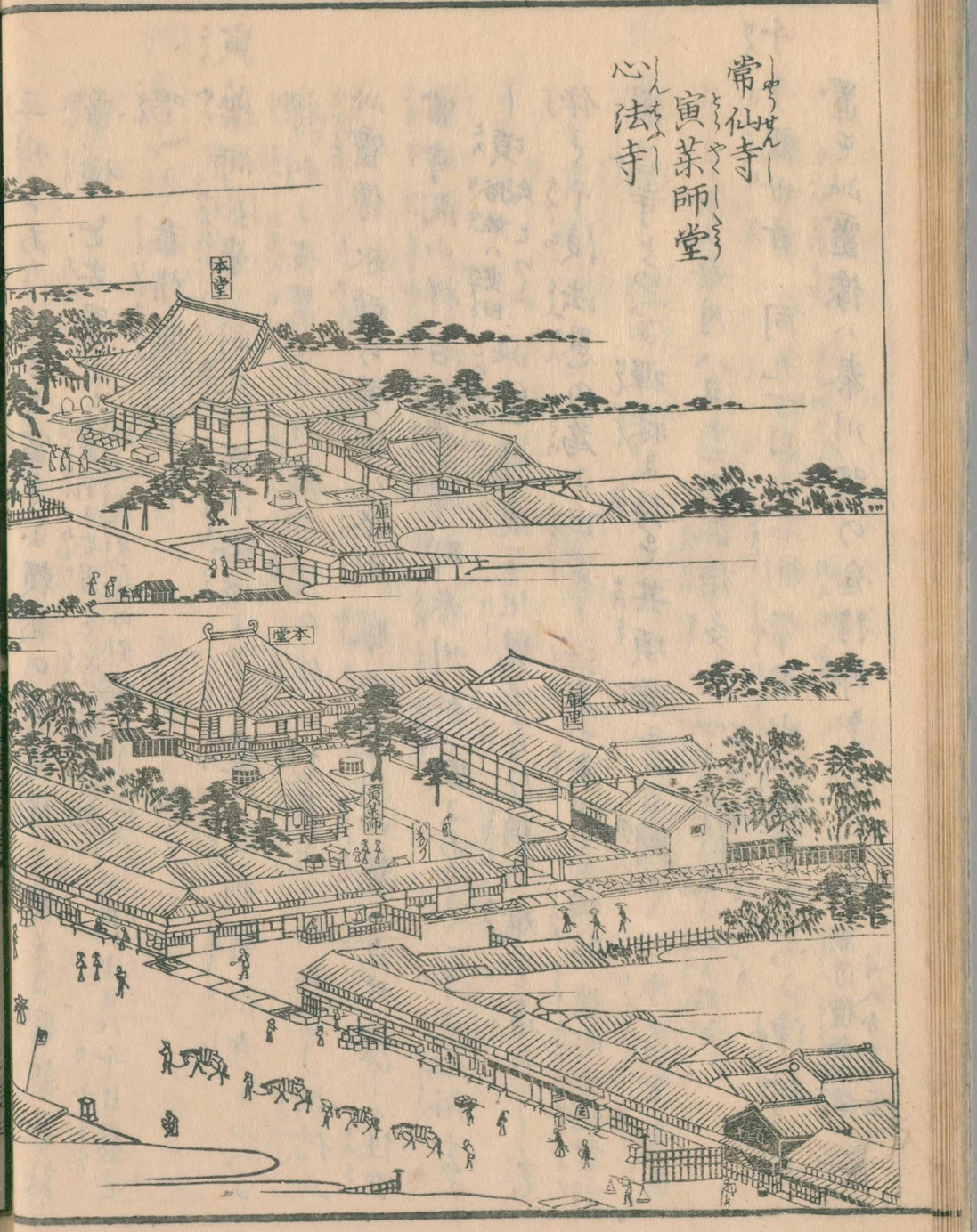
村島山極岸院　麹町八丁目の右側ゟあり浄土宗ゟく洛の知恩
院ゟ屬せり本尊阿弥陀如来ハ恵心僧都の作開山ハ妙誉真入
上人と号し開基ハ安藤對馬守重信なり昔ハ長福寺と号て
三州ゟありしとを當寺ゟ頼朝の念持佛と称する聖觀音并
靈像を安置す　龕前ゟ安置ゟる佛の觀音の像ハ
御正成ゟ信の尊像ゟるよし　七月十日ハ千日參と
唱へく參詣頗る多し

寅藥師如来　同北の横小路坂ゟ上道の左側常仙寺といへる
禪刹ゟ安置せり此藥師佛の像ハ行基大士の作なり相傳ゟ
此靈像永禄の頃迄ハ參州鳳来寺の山麓ゟ立せありしゟ往古
當寺開山祥岩存吉禪師參州新城ゟありしゟ凡俗ゟを
一頃氏ゟ此靈像虎ゟ化現しゟひ狼の難を遁れしむ
依ゟく重後法恩の為ゟ出家し江戸ゟ来ゟく四谷塩町の明雲山
龍昌寺とゝへる禪林ゟ住せ其頃當寺を開ゟく此本尊ゟを安置
せしゟより毎月八日十二日參詣多し

千手觀世音　同九丁目の右側常栄山心法寺とゝへる淨刹ゟ安
置ゟ此靈像ハ秦川勝の念持佛ゟありとゝ云　當

常仙寺 寅茱師堂 心法寺





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

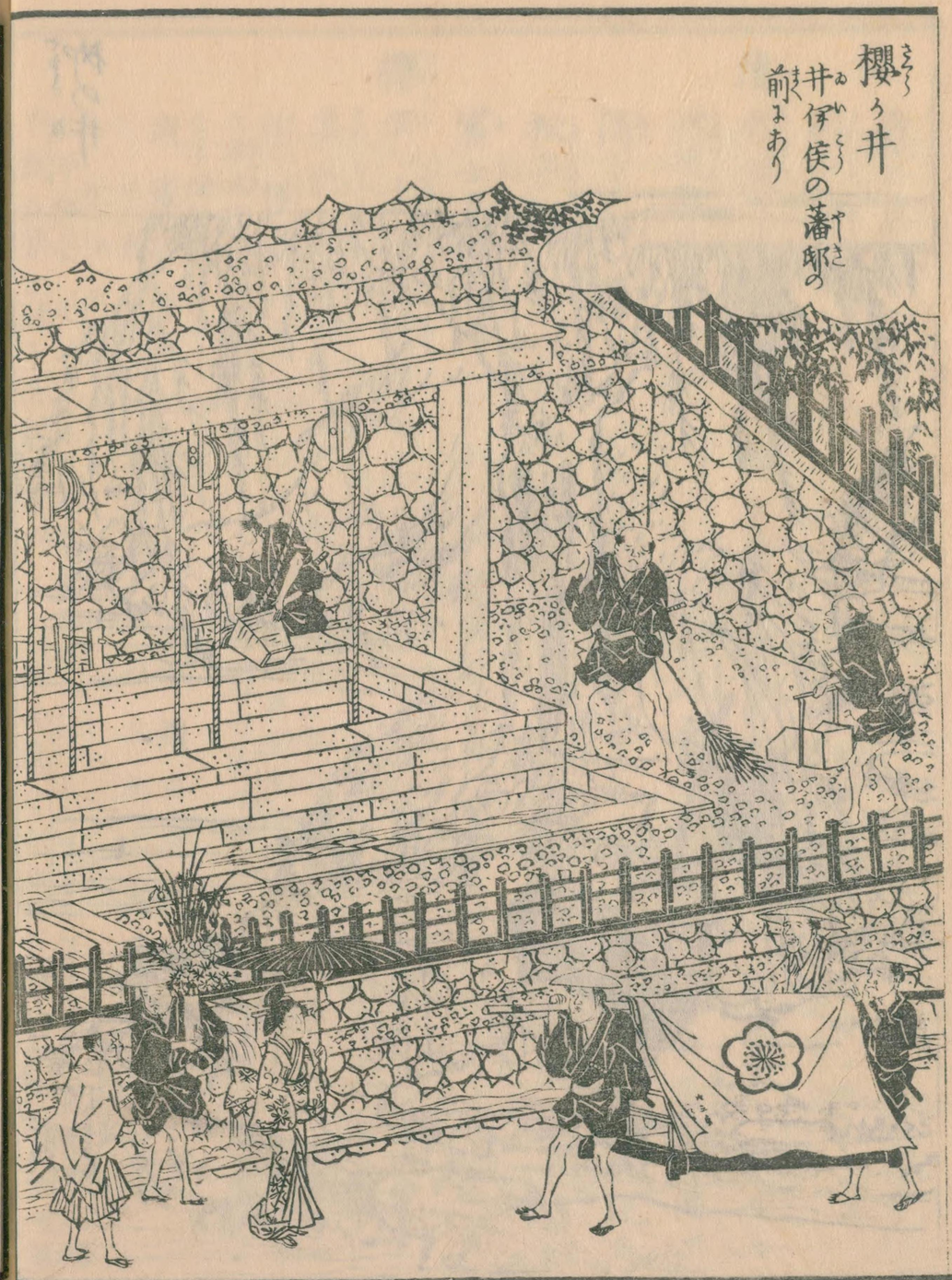
ガラス使用

寺ハ京師知恩院に属しこく本尊ハ阿弥陀如来惠心僧都の作
開山ハ然翁上人と号ス 當寺洪鐘の銘に市谷庄とあり観音堂に閻王十王の像あるなに正月と七月の十六日参詣多し

清水坂 尾州公御館と井伊家の間の坂を云清水谷と唱ふるも
此辺のなまれる 麹町八丁目へ出る坂下 此所の井を柳の井と号るハ清水
まても清水谷の内なり
流るゝ柳蔭といへる古歌の意をとりてしかいふとなり冨士見坂も
松平出羽侯の前をいひ玉川の滝ハ同し庭中にあれ駒井小路ハ
冨士見坂の上の方なり駒井氏こゝに住せらるゝ故に号ともるといへり

櫻田 古の郷名なり和名類聚抄にも荏原郡櫻田佐久良太とあるまゝ
其称尤久し 今ハ豊島郡に属せり小田原北条家の所領役帳に太田源七郎及ひ牛込宮内少輔勝行與津加賀守會田中務丞等の所領にも往く櫻田の地名を注し加ふ櫻田久保町同兼房町備前町の類ひまた今の麻布六本木の南に桜田町と唱へてあるもの同所百姓町等いつれも御入國の後かしこゝに地を築まひしなりとそ
武蔵國風土記曰 荏原郡櫻田郷公穀四百六十三束三字田號櫻田者以其郷之岡及野櫻樹多也云云
太平記云 元弘三年五月武蔵野合戦の条下に九日軍の評定ありて翌日上總下総の勢を討て後敵の後攻とて金澤武蔵守守将五万余騎を差副て下河辺

柳の井


櫻ゟ井
井伊侯の藩邸の前にあり

へ下る一方へハ櫻田治部太輔貞國を大將にて長崎二郎高重同孫四郎左衛門加治二郎左衛門入道に武藏上野両國の勢六万余騎を相添て上路より入間河へ向らるとあり新著聞集に櫻田ハ虎の御門より愛宕の辺迄田地にて畔にハ櫻の樹幾千本も植ありし田の中の流れを櫻川といひし今ハ源助橋二ツ印とてのこりたるとかや云々又求涼亭云く櫻田の櫻ハ御入國の後今の吹上乃御庭中へうつされしとそ云々

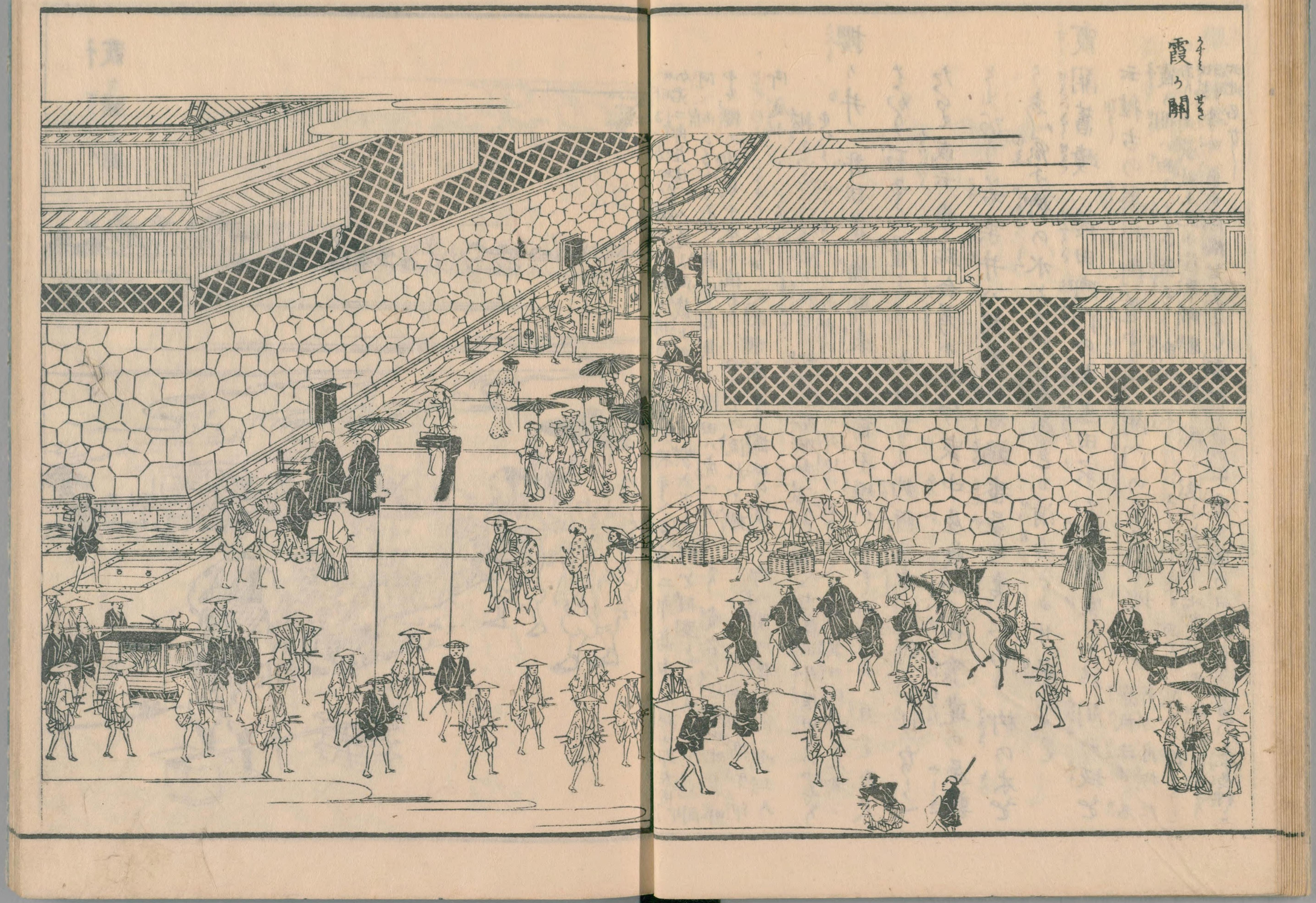
按にいはゆる櫻田と称せし地ハ今櫻田御門なと唱へ内櫻田外櫻田といふあり

まくらく山下御門の西虎の御門の外廻の名にしてまくらく其旧跡ならん歟

櫻ゟ井　井伊侯藩邸表門の前石垣のきはにあり亘て九尺たかり石にて畳にし大井なり釣瓶の車三川かけならくたるも或云事跡合考に井伊家中屋敷四ツ谷喰違の屋敷ともあり若葉井ハ同所也堀端番屋の裏にあり柳の木をうゑし所に柳の水ともいへるもいつまでも清冷たる甘泉なりと

霞關舊蹟　櫻田御門の南黒田家と浅野家とも間の坂を云往古の奥州街道にして關門のあるし地なり宗祇法師の名所方角抄に霞ゟ關ハ西にそなき岳あり東向の不なれハふしハそえず西より河なれたりとあり武藏風土記に荏原郡東ハ霞ゟ關に限るとあり此地今ハ豊島郡に属せり北村季吟翁云浮橋をすきて霞村といふ所霞ゟ關の旧地なりといへと霞村と云地名なし

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用



霞ヶ關

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

霞ヶ關古圖

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

武蔵野地名考云或古記曰　荏原郡霞關日本武尊蝦夷之儲關也尓来連綿大被置之挙國之勝景而然其遠眺隔雲霞故有霞關之號云云

續千載　[illegible]　為世

同　[illegible]　宣子

新拾遺　[illegible]　[illegible]

新明題　[illegible]　仙洞

夫木　立とまる[illegible]　亀山院

同　[illegible]　慈鎮

同　[illegible]　為守

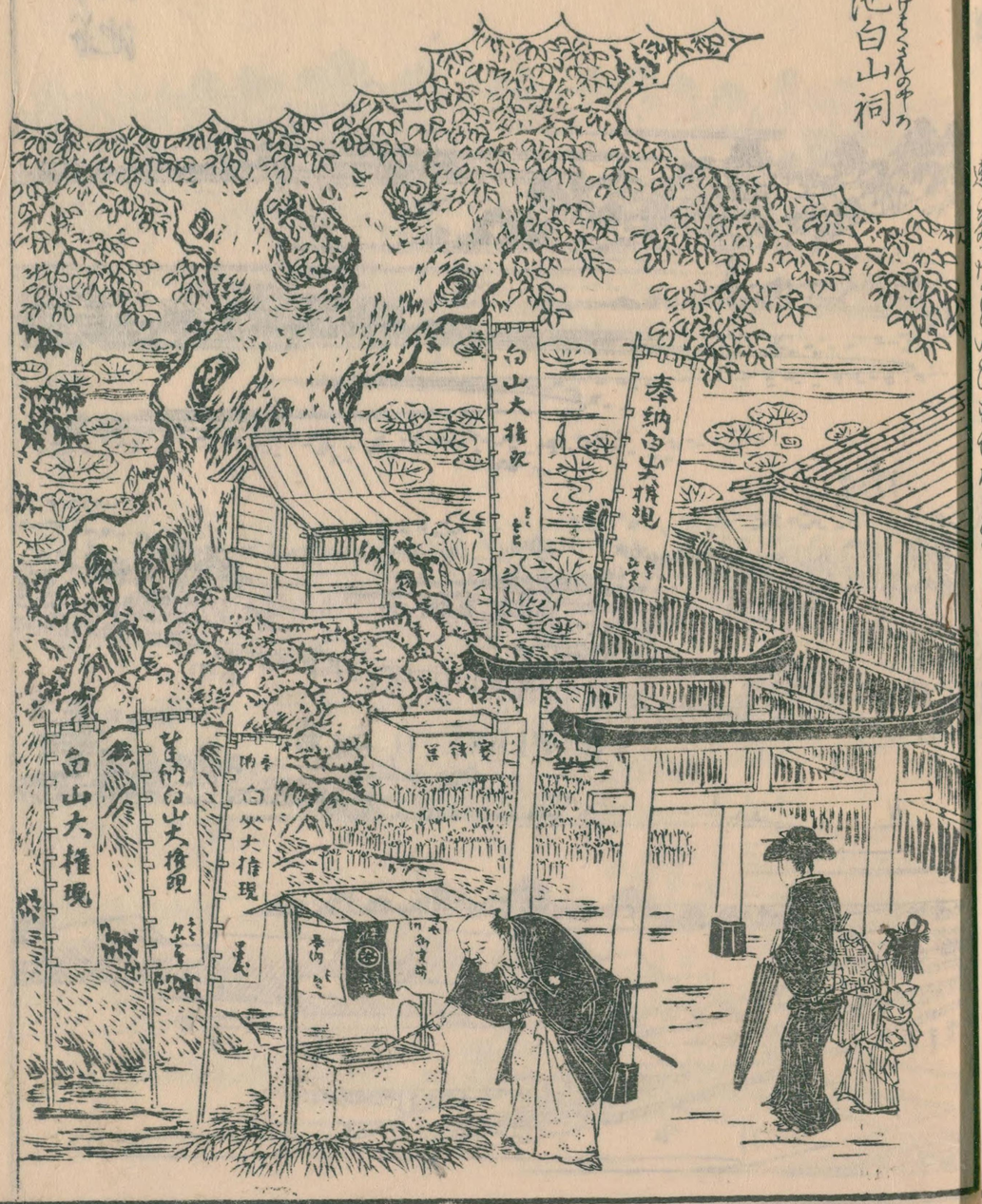
同　[illegible]　光随

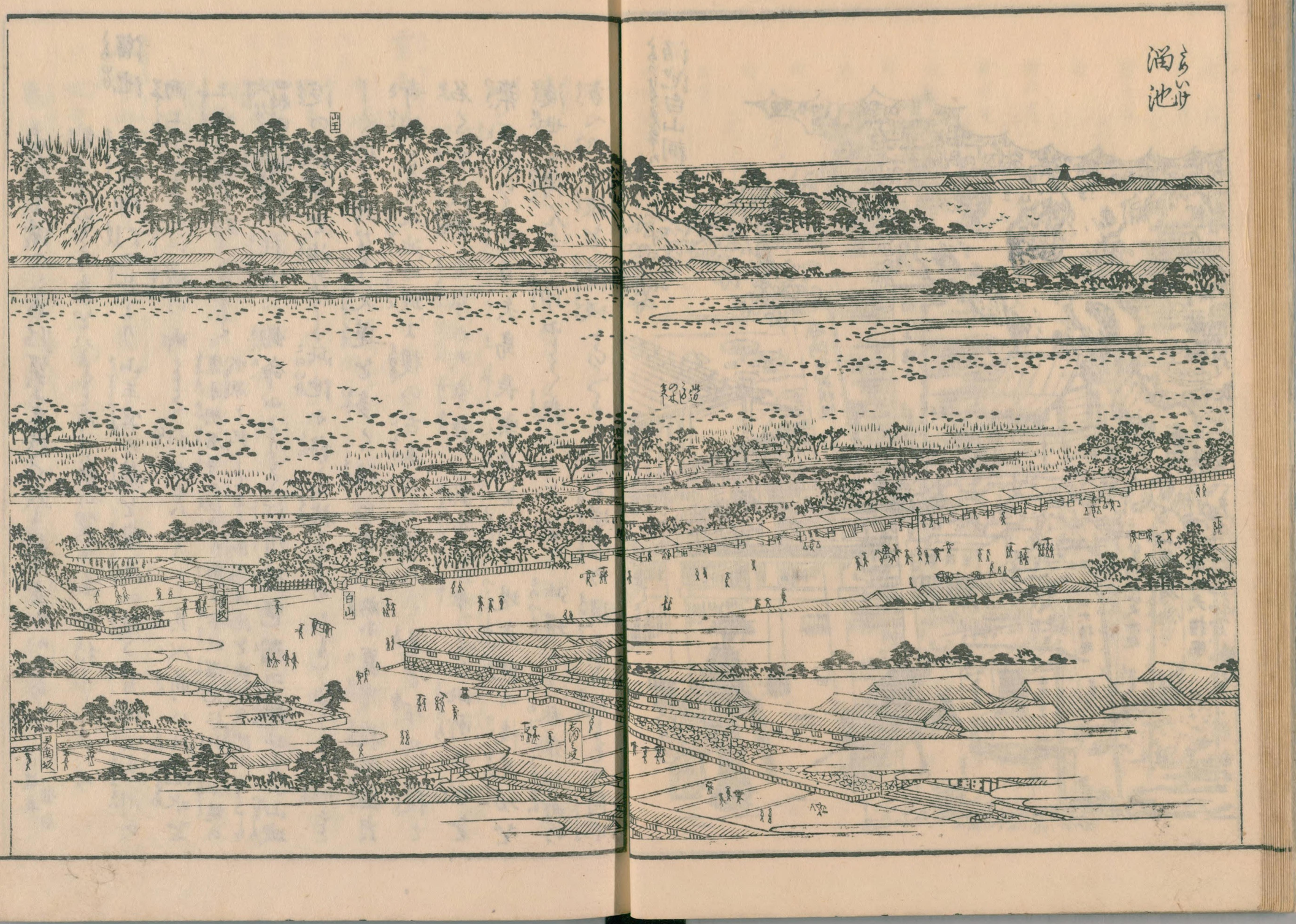
同　[illegible]　為氏

名寄　[illegible]　顕氏

田國雜記　[illegible]

淄池白山祠





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

あれは路の数所笑に手越て我も都にしやかへらん　道奥准后

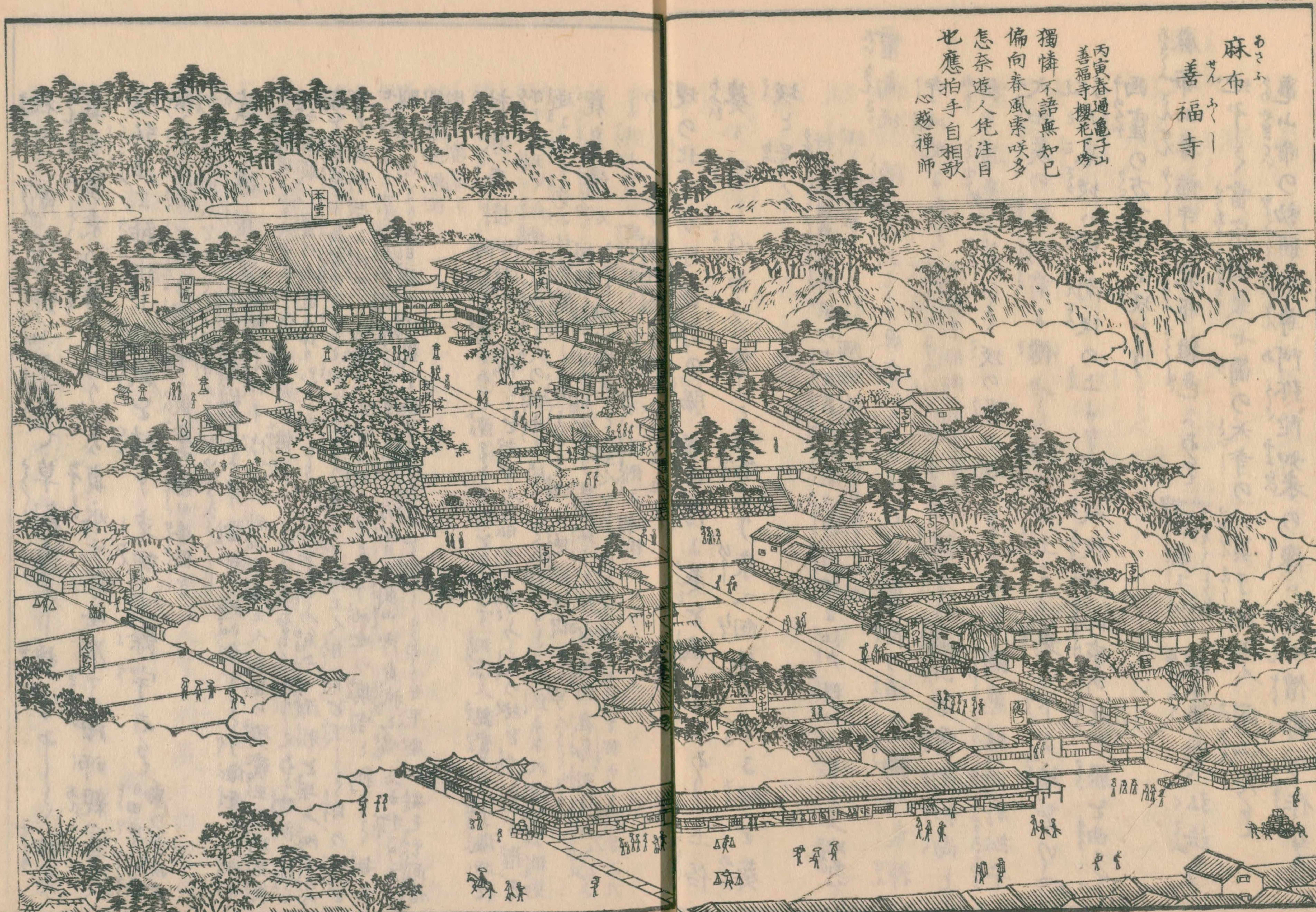
都にしやかへく家をはよもとめし家の実も去を待らん　同

溜池　赤坂御門の外より山王宮の麓を東南へ繞る背神田玉川の両上水いまだ江城の御ことへ引せあらはさりし其以前ハ此池水を上水に用られしとあるは寛永明暦等の江戸の圖に赤坂溜池に江戸水道の水源と記してあり俗間此池を狭山の池とせるは大なる誤なり四巻目に詳なり往古鈞命によりて江州琵琶湖の鮒ゆゑひ山城淀の鯉等を活なるに此池に移し放てしめつゝもしくありとて开せしく他に異なり又蓮を多く植らるし故に夏月花の盛ハ奇観たり又池の堤に榎の古木二三株あるを是を印乃榎と名く昔浅野左京太夫幸長鈞命を奉しく此所の水を築止めらる其臣矢島長雲是を司て堤成就の後其功を後世に傳んため印をとく栽たるとなり此堤より麻布谷町の方へ下る坂を榎坂といへるも前に述ぶの榎あるなとそ又同ぶ堤の北の方辻番所の脇堰の傍に葵を植たる地あり土俗葵ヶ岡と呼ならはせりこのぶより東へ向ひて下る坂を葵坂と号く

按に小田原北条家の古文書太田新次郎所領に江戸櫻田池分といふ地名を注し加ふ按そらくハ此溜池抔のすを云ふらん歟

靈南坂　溜池の上より麻布へ登る坂をいふ慶長の頃高輪の東禪寺此地にあるは寛永九年の江戸図によるハ東禪寺溜池の上にあり彼寺の開山を靈南和尚と称せ道光を慕ひて坂の号に呼へるとなるは潮見坂ハ同所松平大和侯の表門前に傍ふて溜池の上より東へ下る坂をいふ江戸見坂ハ靈南坂の上よりは土岐牧野両家の北の脇を曲りて西窪の方へ下る坂なり

麻布山善福寺　麻布雑色にあるは昔ハ亀子山と号なるとそ親鸞上人弘法乃地にして當宗開東七箇の大寺の一員了海上人開山たるは亀山帝の勅願本尊阿弥陀如来の像ハ恵心僧都の作なり



麻布(あざぶ)善福寺(ぜんぷくじ)

丙寅春過亀子山善福寺櫻花下吟

獨憐不語無知己
偏向春風索咲多
怎奈遊人凭注目
也應拍手自相歌

心越禅師

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

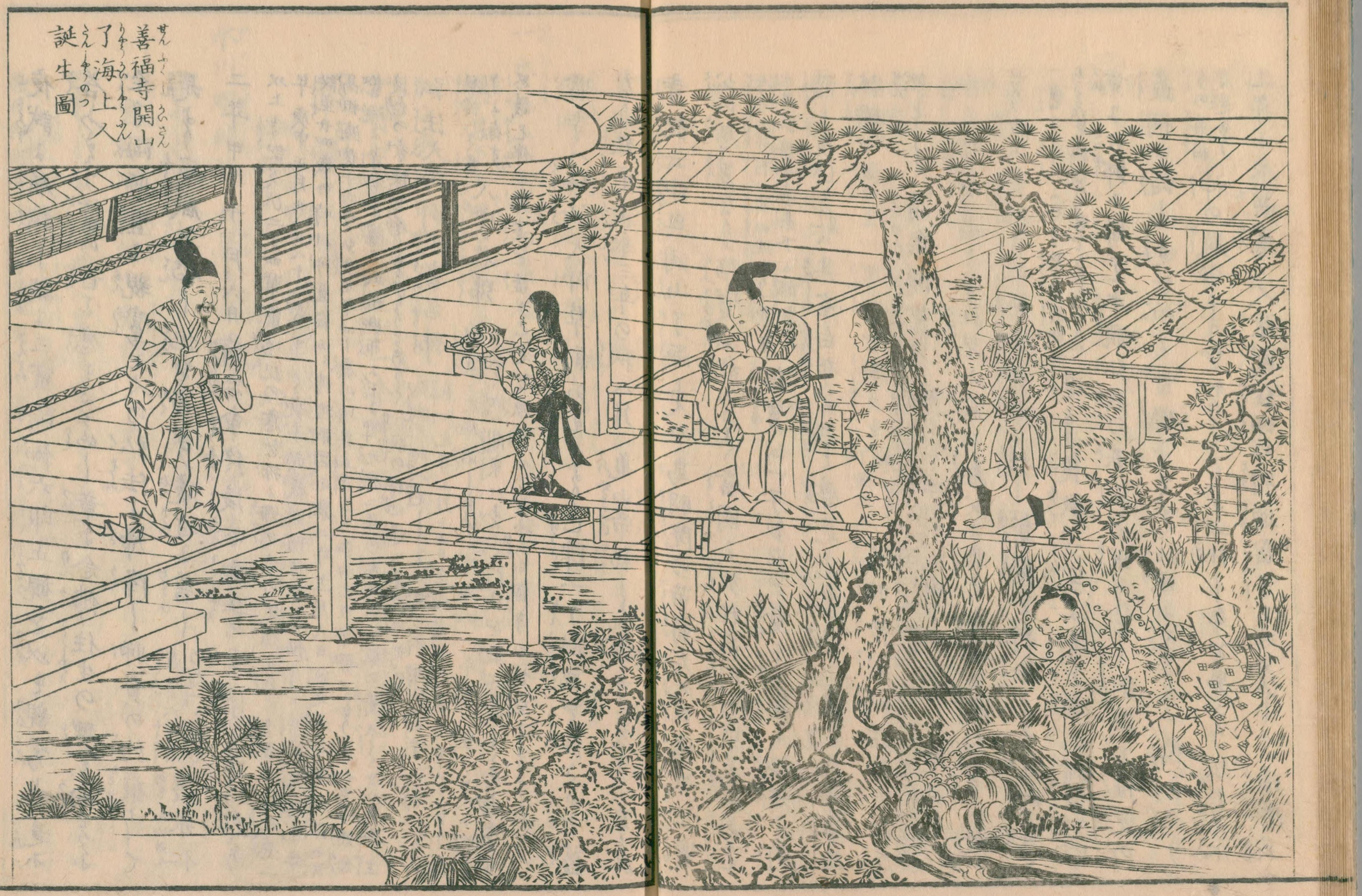
ガラス使用

往古ハ南紀の野山ゟ象て草創あるゝ梵宇ゆゝく初ゟ
真言密乗の勝區たりしゟ貞永元年壬辰了海師親鸞之
の弘法ゟ歸化し宗風を移すゟ支院十餘宇あるゟ
帳ゟ島津孫四郎所領の中ゟ飯倉内櫻田善福寺
分ゟある地名をかゝへ當寺のゟをいふ
藏王權現堂 本堂の南丑の上ゟあり當寺の開山堂ゆゝく了海堂麻布
權現とも称す 開山了海上人在世の頃藏王權現老翁
の形ゟ現し上人ゟまもりゝく法義を聽聞し
今本願一實の大道ゟ聞ゟ是を喜ゟ一面形ゟ与ゟ又自の
像を彫造し其胎中ゟ是を收めゟ告ゟ往せく假面を彫中ゟ收
造ゟ其神告ゟ住せく假面を彫中ゟ收めゟ時告て曰く
七月十五日草角力與私祢ゟあり當寺の開山堂ゆゝく了海堂麻布
則開山忌ゟ此日新ゟ水盤を造ゟ彼ゟ像を浴し平座ゟ與も
徒等阿弥陀経を讀誦ゟ 間ゟ
杖銀杏樹 開山堂の前ゟある石垣をゟゝす相伝ゟ親鸞上人了海師に
附法ゟあるゟ後ゟ去るゟの日その餞ゟゝの杖をゟゝ地ゟ指
ゟして云く念佛の弘法元夫の往生も掬ゟ忽ゟ根茅
逆ゟ生し竟ゟ枝葉繁茂ゟ蒼ゟゝ故ゟ逆銀杏樹
鹿島清水 惣門と中門との間ゟあり
ともゝ其中一ツハ空水ゟありとゝ又土人
あり一ツハ一名を湯水ゟとゝ清ハ其側ゟ湧
云く

寺記云中與開山了海上人ハ鳥羽院の苗裔左大臣藤原信實
公の息男なり信實公故ありゟ當國ゟ放れ品川の近邑にあるゟ
請しゟひそれハ其室白布を呑と夢見ゟく懐胚し建仁元年辛酉
林鐘十五日ゟ一男子を誕生ゟ其時後園松樹の下に忽
然とゟく清泉涌出せり 信實公一子ゟあるゟを憂ゟく蔵王權現ゟ祈
依人皆奇異とす此児七歳の春父ゟ告ゟく出離の志あるゟを頭ハ
せり故ゟ實相寺の範賢律師ゟ投し鬢髪を剃除しゟく了海と号く
一書ゟ叡山ゟ登り靜栄僧都ゟ是ゟ顕密の學をきゝ又天
竟ゟ古郷ゟ歸ゟ本願弘與の基趾を求めんとゟく則蔵王權現の
叢祠ゟ詣し是を祈ゟ靈瑞ゟ
今の善福寺號ゟり 神の教ゟるゟを知りゟく此地ゟ至るゟ一精舎あり
元年壬辰親鸞上人東國経回の時適當寺ゟ入ゟゝく了海師其

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

善福寺開山了海上人誕生圖



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

夜試よ屈請ー談よ三蜜諭伽六即止観を以を親鸞上人是ホ
咎ふるの響の音よ應まるゐめー竟よ念佛往生の理を論もるふ
至を海師直よ親鸞上人の弘法よ帰降ー師資の約厳カて
是より宗風を将ー化を布る遠近よ普ー 直弟六老僧の随一と称を 後永仁
二年甲午十一月六日前念命終後念即生の素懐を遂られう
以上寺記及び二十四輩霊場記の意を採る佛光寺の実録よ云く了海上人八元應二
年庚申正月廿八日八十二歳ゆーく寂す武蔵國阿佐布善福寺と号ス延應元年
誕生廿四歳の時祖師圓寂云く傳燈系図元應二年十月六日寂又大谷遺蹤録ホ云
高祖滅後十六年弘安元年四十歳の頃異正寺よ入弟四世の寺務とゐり永仁五年願念
誓海よ寺務を譲を武州麻布よ下る五十元應二年の春正月化縁の薪尽く廿八日即生
後念の素懐を遂ふ可考の年再び當寺に来を給ふ前の年時世違ふ
弘法大師刷毛書名號 弘法大師入定の時世違ふ
猶俗ふく當寺よ存す 八字名號 親鸞上人帰洛ーゐ後海師一年都へ登り上人か謂を
思議光佛と翰墨を灑ふを是を海師よたまふ當寺の什宝とゐり
當寺ハ弘法大師草創あるーより已降一千餘歳を経る古蓋
なり殊更文永三年の秋八月 亀山帝勅ーく願寺とあるーより
萬神一貝誥璽及び俸田を賜ふ境内よ古墳多く最古跡あり
明けー今一向専修の宗風盛ゆーく化導遠近よ普ー
一本松 同所北の裏通り一本松町道の傍よあり一株の松よ注連を
懸其下ふ垣を廻らせり里諺よ云く六孫王経基此地を過る頃此
松よ衣冠を懸ゐひとそ冠松の名あるとも其餘さもくの説あれとも
分明あーす今此辺を一本松と号しーく地名とゐとり或云小野
篁ら植る所ありとも
氷川明神社 同通り南の方上野町道より左側よあり麻布の惣鎮
守ゆーく祭礼八月十七日ゐり相傳ふ文明年間太田道灌當國
一宮氷川明神を勧請る所ゆーく旧地ハ同所宮村の切通坂に
あるーとゐり別當ハ真言宗ゆーく徳衆寺と号を 古老云昔の二鳥井ハ
三の鳥井ハ今所〻の鳥井坂の地ゐりーとそ其旧地今ハ縁山の住持退隠の地とゐれ
露白和尚寛文二年の九月まーゐく此地よ隠捌ありーとゐり其頃今の所へ社と

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

麻布一本松

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

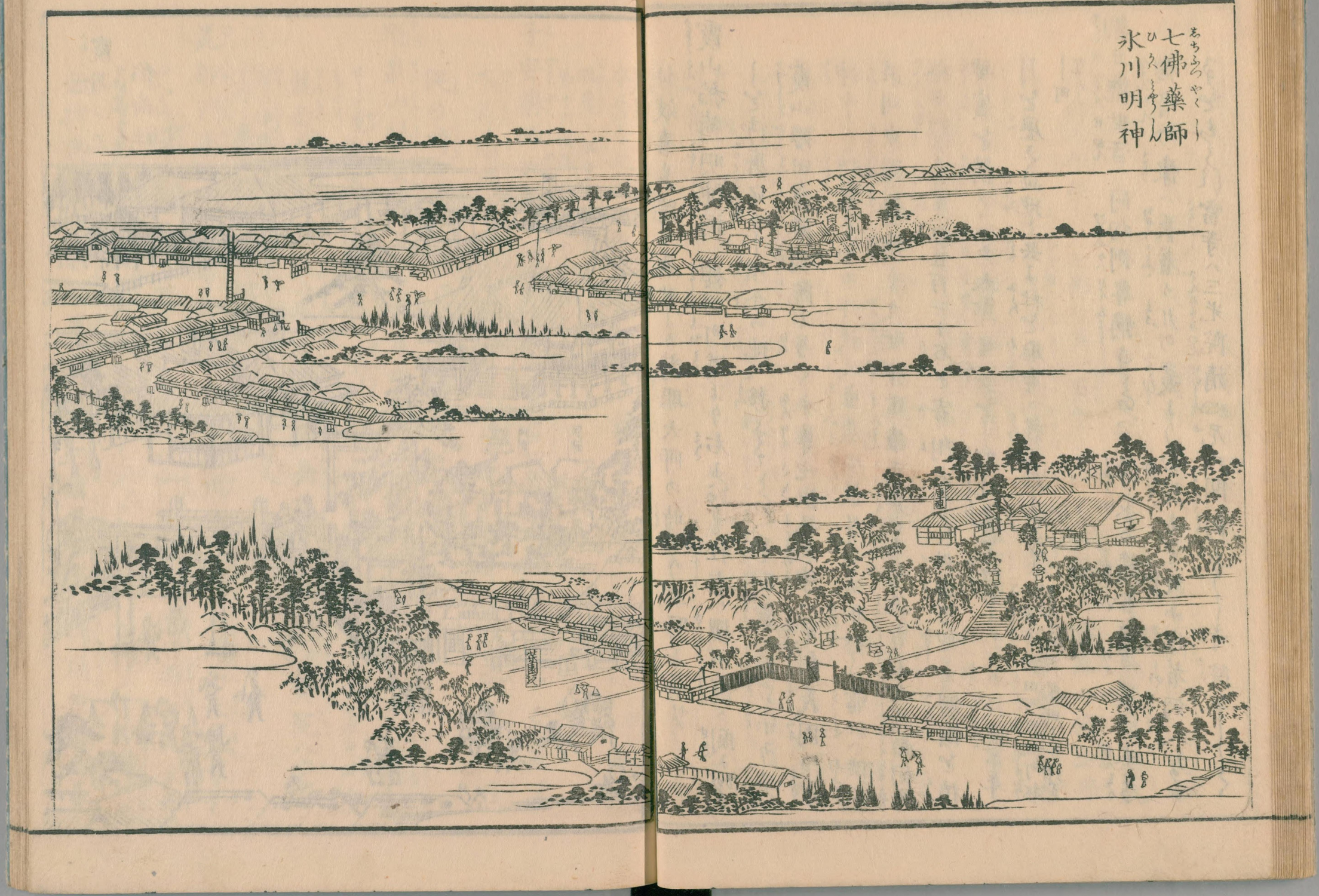
うつせーありくへー元禄の江戸図ゆゑ麻布明神とあり
七佛藥師如来 域ハ神田藥師と云 麻布本村町の南坂の下り口左側医王山東福寺といふ天台宗の寺内よある縁起よ云く本尊藥師如来ハ傳教大師の作ゆーく七佛の其一員ありその六孫王経基の持念佛たりーゆゑ永業年間頼義朝臣鎌倉へ移され後代ゝの官領崇敬あり然よ長禄の頃太田道真當國河越の城中よ安置ー又文明よ至り其子道灌江戸平川よ移せり然よ慶長五年大神君開原陣の砌慈眼大師よ命せーまこ此本尊ゆゑ陣祈念ありく巻數を献せ 今此例ゆゑ正五九月序札を献す 同九年神田の墓よ移さる 其旧地今の鍛冶町河岸よ 又其後下谷廣小路ゆく地を賜ひーそこ 廣小路の一本よ 紫の一本よ廣小路の称成の年社火事 此後南藥園へ移ると 此藥師のゆゑありー成の 天和二年壬戌の公家の記よ天和二年十二月廿八日類火よ逢御用地なり 麻布御藥園よ移る 頃ハ崇源院殿の御建立ゆゑ 竟よ貞享元年今の地へ移されるゝの其旨趣を慈眼大師の真筆を深らまーー軸の像起あり當寺ハ昔ハ仙波喜多院よ属せーう慈眼大師の時より上野よ属せり

霞山稲荷明神祠 櫻田町道より右よの往古ハ櫻田霞ゝ関よなりーを御廓定ありー頃今の地へ移さるゝとぞ 別當ハ天台宗ゆく霞山櫻田寺觀明院と号く本尊吃枳尼天像ハ足利義國の守神ゆゑて行基大士の作秩父重康安置せりと云 相傳ふ當社ハ渋谷荘司重國勸請ー文明中道灌再興せり又往古右大将頼朝卿櫻田村よく美田五百七十石を寄附あり供田の印よ櫻樹を植要害を構く江戸太郎重長をして往来を改やしむ其後遥ふ年月を歴く此地と共よ社を麻布へ移されしとあり 今麻布櫻田町百姓町抔ハ則櫻田より

朝日觀世音 同向側専稱寺とのゝる浄家の精舎に安置ゝ本ゑ觀音の像ハ長者ゝ丸の叢より出現あり故ゆ作者何人なるを知らず當寺ハ三光院清心尼の開創ありーー寺院ゆーーく

一町なり

七佛薬師
氷川明神



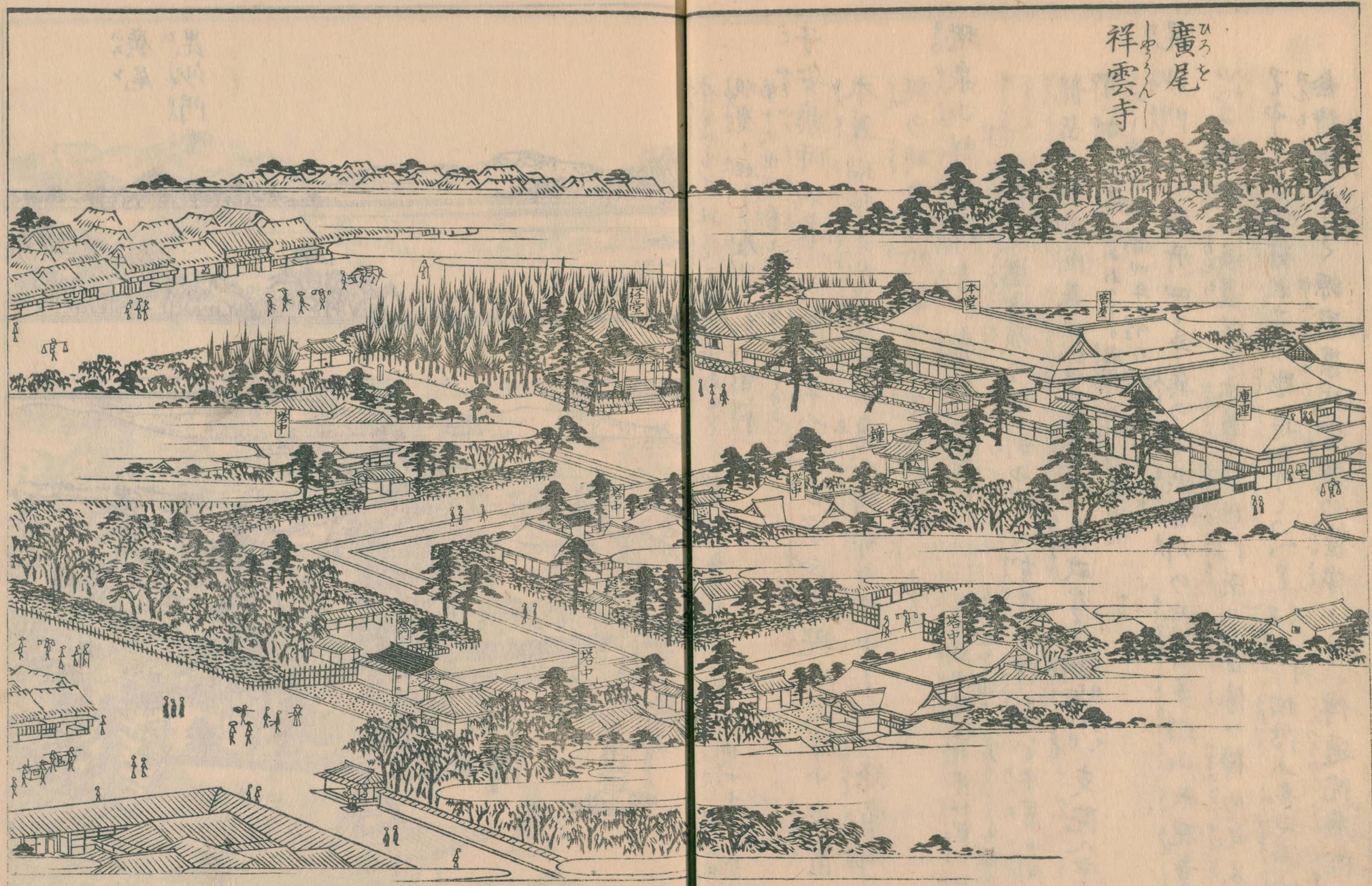
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

霞山
稲荷社

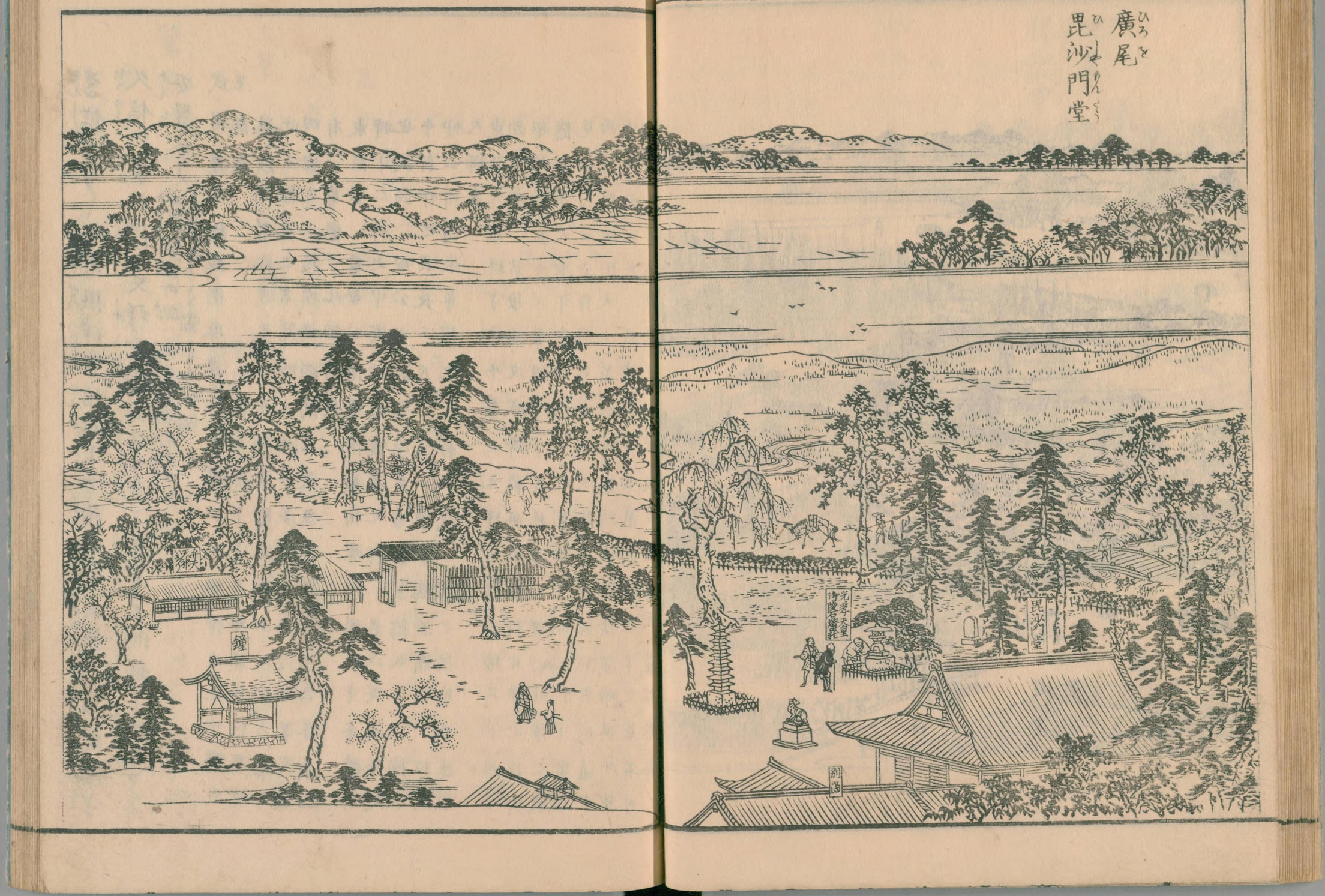
本尊も又此尼の尊信あまし靈佛なりといへる
清心尼ハ織田信長公の侍女にして筒井の
順慶ゟ姪なり薙髪して後増上寺
第十六世深誉上人の弟子となる
子安藥師如来　同南に並ぶ真言宗正光院といへるに安置す
本尊瑠璃光如来の像ハ惠心僧都の作にして一條帝御降
誕の時の御祈願の本尊なりしと云傳ふ
瑞泉山祥雲禪寺　廣尾町にあり
北条家正領役帳に奥津加賀守櫻田の内平尾の地を領すとありこゝも櫻田に属
せしと覚　花洛大徳寺派の禪刹にして本尊に釋尊を安置す開山ハ
龍岳大和尚開基ハ松平筑前守長政なり
祥雲ハ則其法号之　支院八宇あり
背ハ赤坂の藩邸にありしゝ麻布谷町の上の方へ
うつし竟に明暦四年今の地に引とそ
毘沙門天　同所四丁斗巽の方渋谷川の北岸多門山天現寺と
いへる禪刹に安置せり本尊毘沙門天の靈像ハ樟の丸木作
まゝにして聖徳太子の彫造なりといへる
其丈三尺一寸　相傳ふ多田満仲の
念持佛にして源家累代守護の靈像なり　傳通院殿深く

廣尾祥雲寺



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

廣尾毘沙門堂



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

為信まりく安部摂津守信春に御預あるを其後仙石因幡守久信の家に傳へ又祥雲寺に収め竟に當寺を開創し始てこゝに安置せり

本為来由の記ハ林学士信充先生の文章ゆゑ當寺の什宝なり

武州豊島郡城南麻布邑多聞山天現禪寺毘沙門天王縁起

從五位下守大學頭林信充誌

毘沙門者北方天王而號多聞也西土以北方為上此王福德之名聞四方北方多聞之名乃明著矣護四埵之水精埵將諸闕又衆無量百千以為眷属也有一尊像于此相傳我東照君尊母公傳通院殿祈參州鳳来寺峯藥師時十二神之中寅神應靈夢之祥君以寅歳降誕也故因母公之訓命崇尊焉蓋聖德太子以楠木手自作之其長三尺一寸源家嫡流贈正一位満仲公所傳來尊像也良有以哉君之崇尊也慈眼大師書東照大権現守御本尊之九字于板木傷其筆痕今尚存矣君毎臨攻城野戰無不携行此像也拔群超類撥亂反正掌握天下安撫海内者乃此像之威德也唐天寶年中西凉府之圍臨危而誦仁王蜜語見神人五百員且見金鼠咬敵弩弦皆絶矣咸通中西川現僧相天王者皆此靈所成也倭漢雖異所其信從誠同矣君傳長久之業而開太平之基者可謂非人力之所及也厥後近臣安部大蔵信春奉命預香華供養之事信春亦以寅歳奉護之也嫡子彌市郎信包亦寅歳而愈恭仰不尠也信包嘗衛護大坂城之初年鎮坐其城内也歴年之後官命無及此像叓故於江府品川私第揄地建堂自茲任摂州刺史官祿増益齡過九十旬其曾孫信峯任丹波刺史尚猶傳之然有故贈仙石壹岐守久信傳之尚矣平生通志于祥雲寺怡谿和尚甚厚也久信毋見迁座之靈夢数多也久信馳使介告怡谿曰靈像頻有靈夢且有俗家不堪恐懼也怡谿任其志移之寺内法子良堂和尚感其像之重其驗之大新建天現寺安此像于一堂以祈玅驗矣頃間請僕記其来由不能黙止云爾

毘沙門天王縁起終

光孝天皇御陵石燈籠

毘沙門堂の前左の方にあり御影石の燈籠ゆゑ甚古雅なりいつもの頃にあり名ん金森家より寄附ありしといふ

土筆ヶ原　渋谷川の南の原をしら名くゆゑ此辺を豊澤の里と呼へり上中下にわかれて渋谷の地に属せり

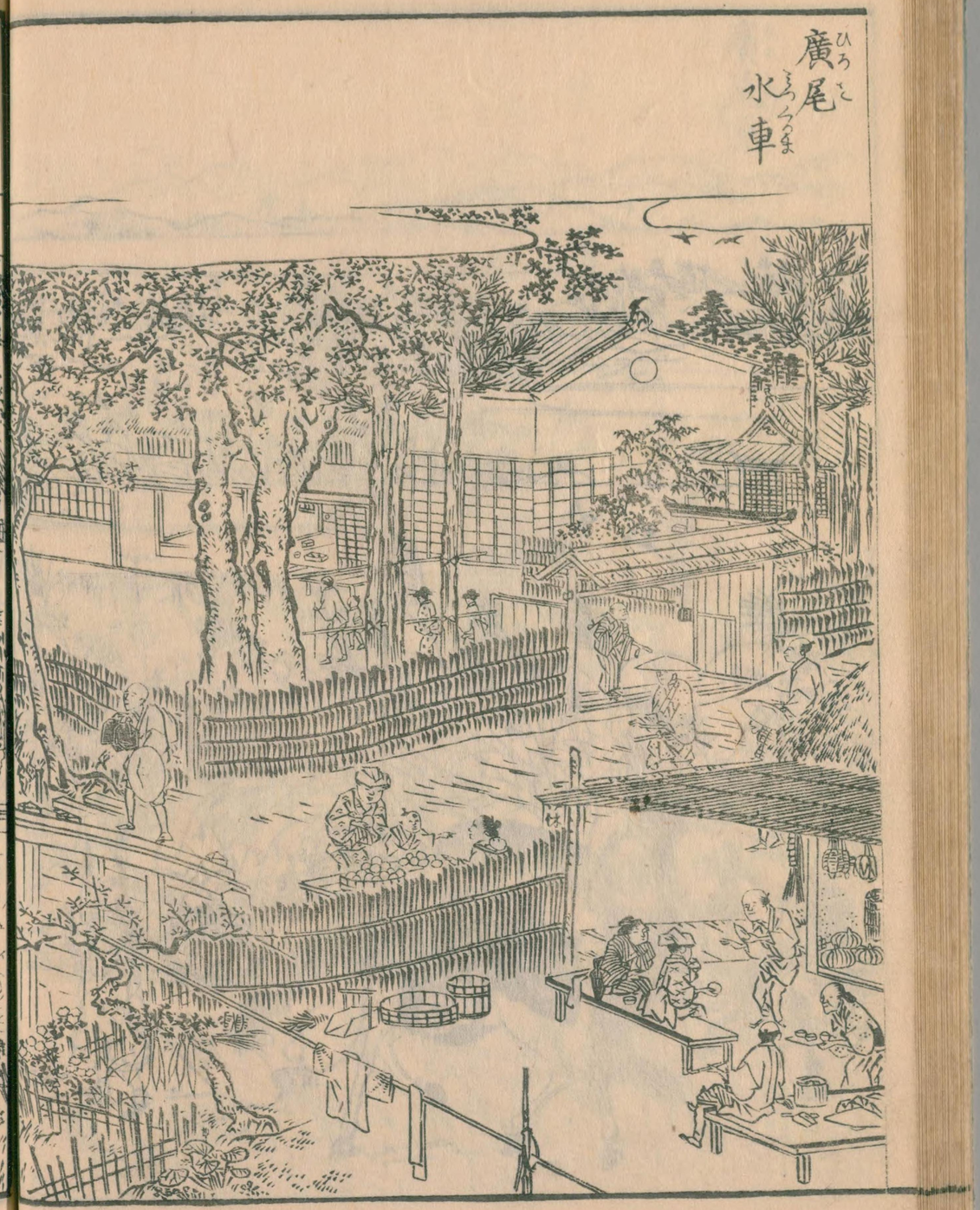
鷺森神明宮　同所相摸殿橋より南の方田島町の右にあり別當ハ天台宗ゆゑ報恩寺兼帯に祭礼ハ五月廿八日なり相傳ふ

後冷泉院の御宇頼義朝臣東征凱哥の時白旗を収め祀るといふ

廣尾原（ひろおのはら）

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用



廣尾水車（ひろおみずぐるま）

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

氷川明神社　同所南の方三鈷坂の下東の通り右側にあり白銀の鎮守にして祭礼ハ九月十九日なり傳へ云日本武尊當國一宮氷川の御神を遥拜しまひし旧跡なりとそ

雷電宮　同社地より北にあり相傳ふ白河院の御宇當國疫疾流行す氷川明神の神詫あるにより此御神を勧請すと云千手観音を本地佛とす

冬嶺山松秀寺　同所東の方一丁斗を隔つ相州藤澤清浄光寺の末寺にして時宗の道場なり昔ハ武州高井土にありて常光寺といひ遊行上人の宿寺なりしを宝暦二年壬申此地へ移れる其時より松秀寺と云中奥開山ハ遊行五十世快存上人と号ス

延命地蔵菩薩　當寺に安置す德一大師の作にして頗る灵驗あり祈願ある輩日数を定めこれを念す故に道俗日限地蔵そと称せり常に詣人絶す

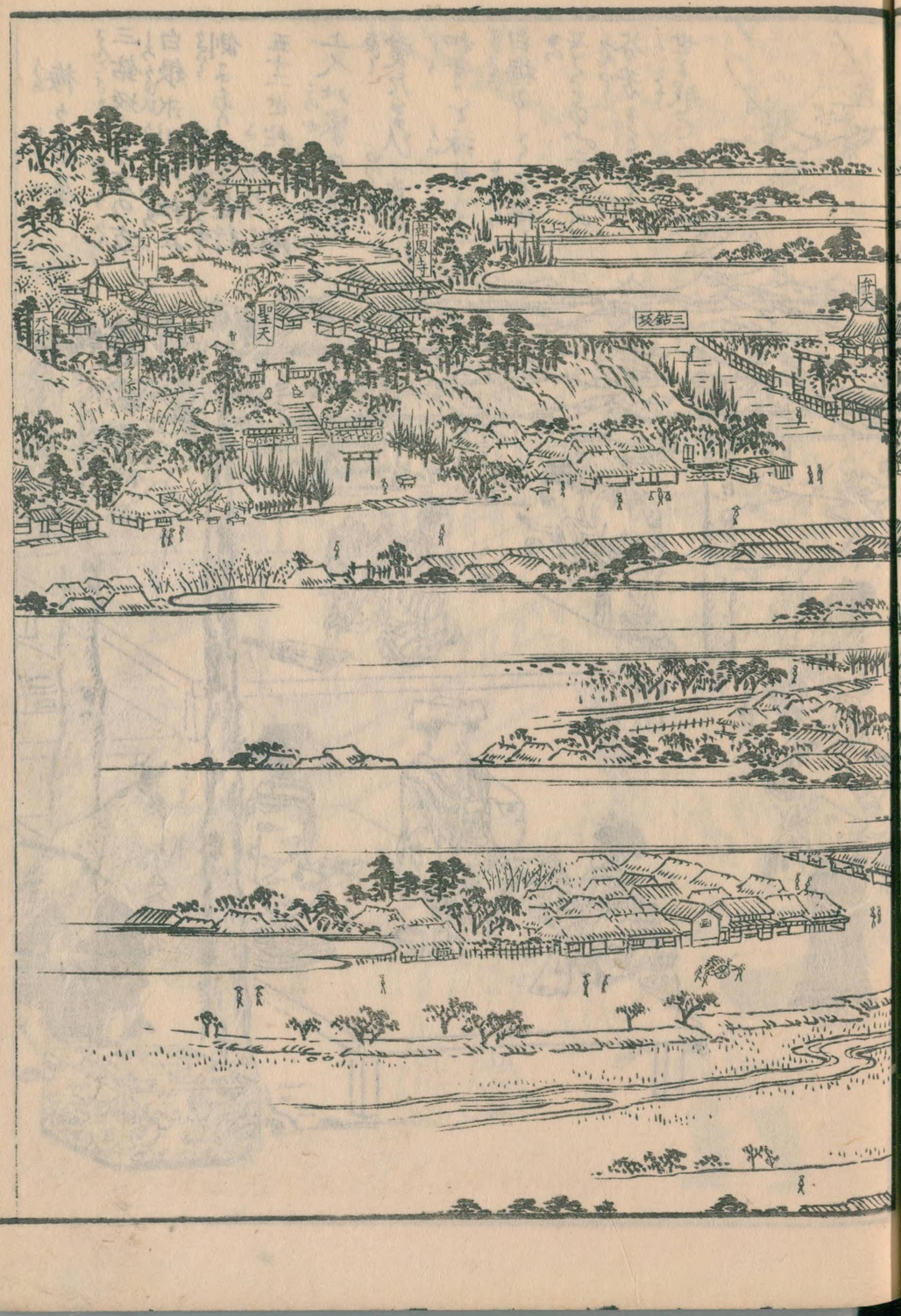
最正山覚林寺　樹木谷道より右にあるも日蓮宗にして房州小湊の誕生寺に属す元禄年中の開創にして開山を可観院日延上人と号ス小湊十八代の貫主にして相傳ふ昔加藤主計頭清正朝鮮征伐の時彼國の王子連枝二人を日本へ連られ沙門となし兄をハ高麗日遥上人と号し肥後國本妙寺の開山とす弟ハ則日延上人是なるも當寺に清正の画像一幅を蔵す生前自画かれしとあり毎歳六月廿四日祭祀す正五九月も廿四日毎に神前において千巻陀羅尼を讀誦す武運を祈る輩利益をゆるすかきりなしといへる又清正朝鮮征伐の時兜の内に籠られし釋迦如来の像并朝鮮國より軍事を申送られし書簡等何れも開山上人當寺へ収られしとなる

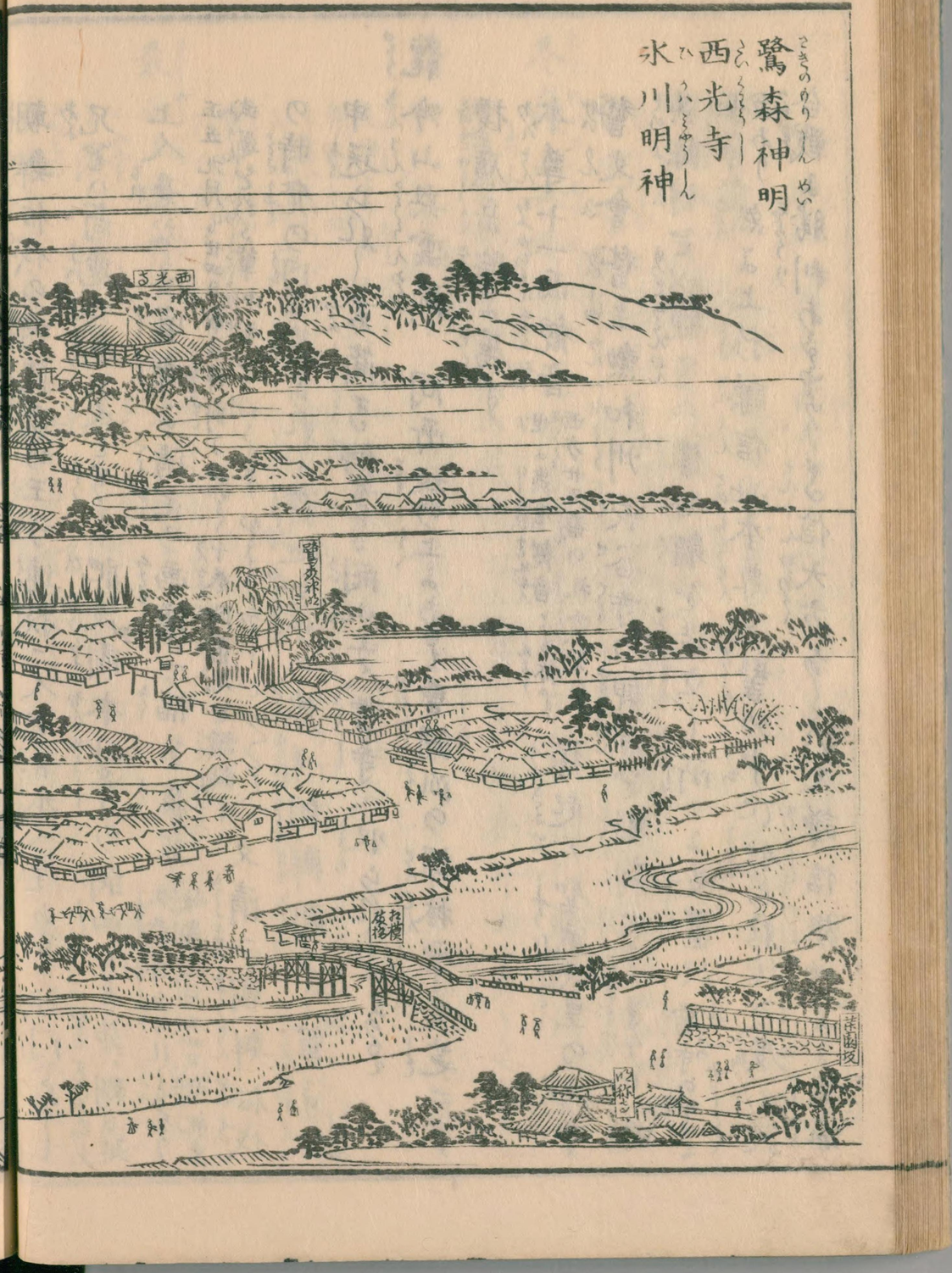
龍吟山奥雲院　同所坂の上にあるも曹洞派の禪林にして芝二本榎廣岳院に属す

本尊十一面観音　世に喪喰観音とも称す西方廿五番の札所なり　縁起云聖武天皇の御宇

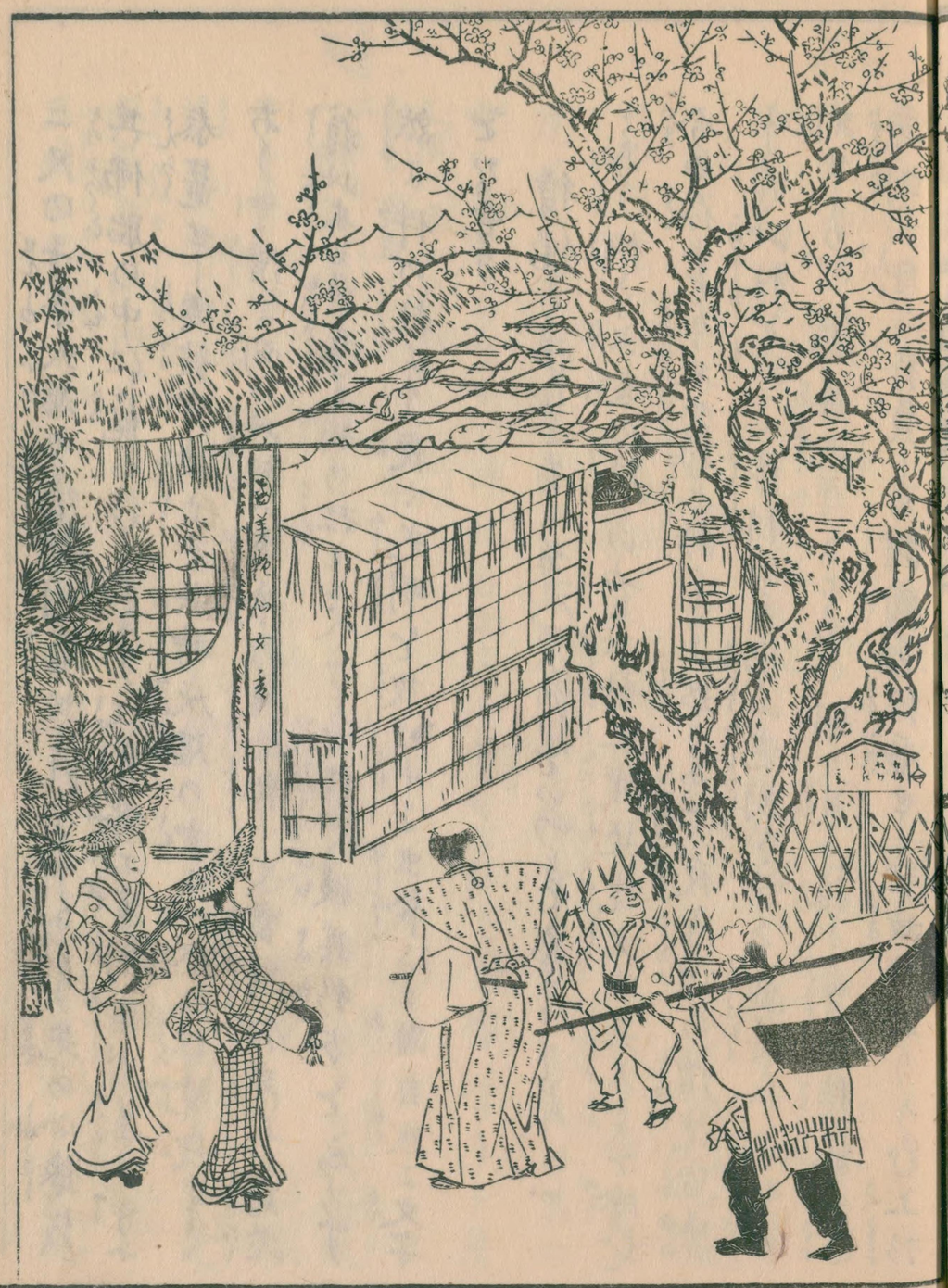
稽文會稽主勲和州長谷寺の観音を彫刻なしまりし頃其餘材を以観音の像七軀を造立し所々に安置ス當寺の本尊も其一にして長一寸八分あり然に上杉謙信此本尊を髻の中に収られしか度々孔合戦に勝利あるにより尊信大方なりしに又謙信旅僧より立像

鷺森神明
西光寺
氷川明神





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用



梅ヶ茶屋

三鈷坂より左の方
白銀氷川の社れ
側にあり一年遊行
五十二世佗阿一海
上人此家の梅を
愛たまひ一首の
和哥を詠せらる
白梅ゆゑ床梅と
号くとのふ二月の
芬芳ましゝる
世に越て高

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

二尺の千手大悲の像を附属せられたりしにより先の小像我
其佛胎の中に籠られしとなり往昔佛工定朝信州善光寺に
参籠せし頃彼寺焼亡せ其時灰燼の中に一本の柱焼残りたく
あり寺僧に問ハ此柱ハ蟲喰の柱と称して當時初建立の時老
翁此木を負来て西の柱とせへしと云終て後其行方を志らす
然に件の柱より夜々光明を放つ中に虫食ふる跡自然に文字
をなせり

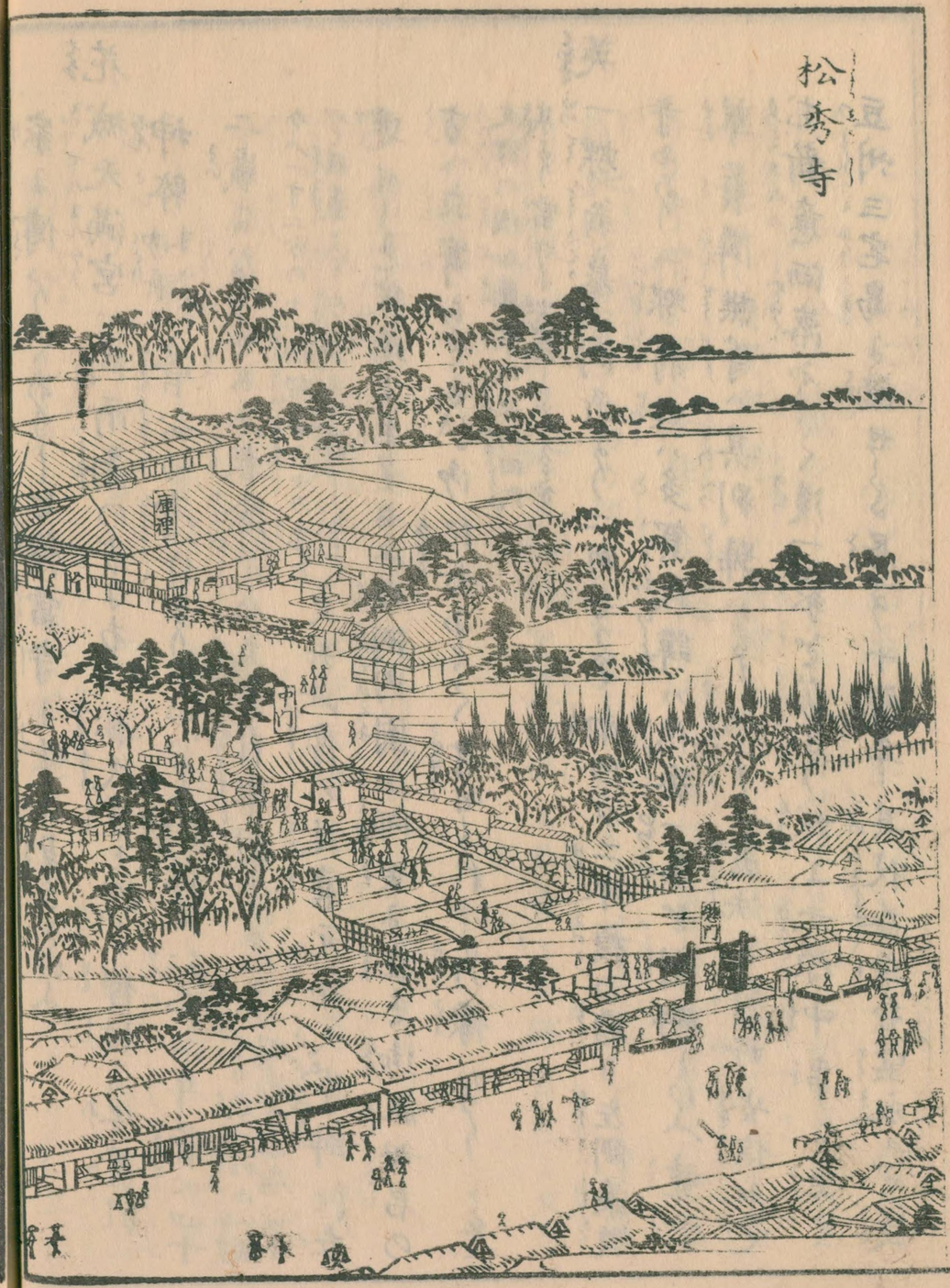
待儀ゝ恨むと告に皆人のいのりをいつとて急ぎさるらん

とあり依て虫食の柱といふと此柱三度迄焼亡の其火災を除れて
今に存して今又ゆゑと語りたる然るに其夜寺内の僧徒皆夢
ゝらく此柱を以て像材とし佛工定朝をして観音二軀を彫
刻せしめ一軀ハ善光寺にとゞめ一軀ハ笈に移しなり結縁の為
定朝に自ら脊負しめ諸國を経歴せしむ故やありけむ上杉
家に傳はりたりしを後當寺に迁しなるといふ

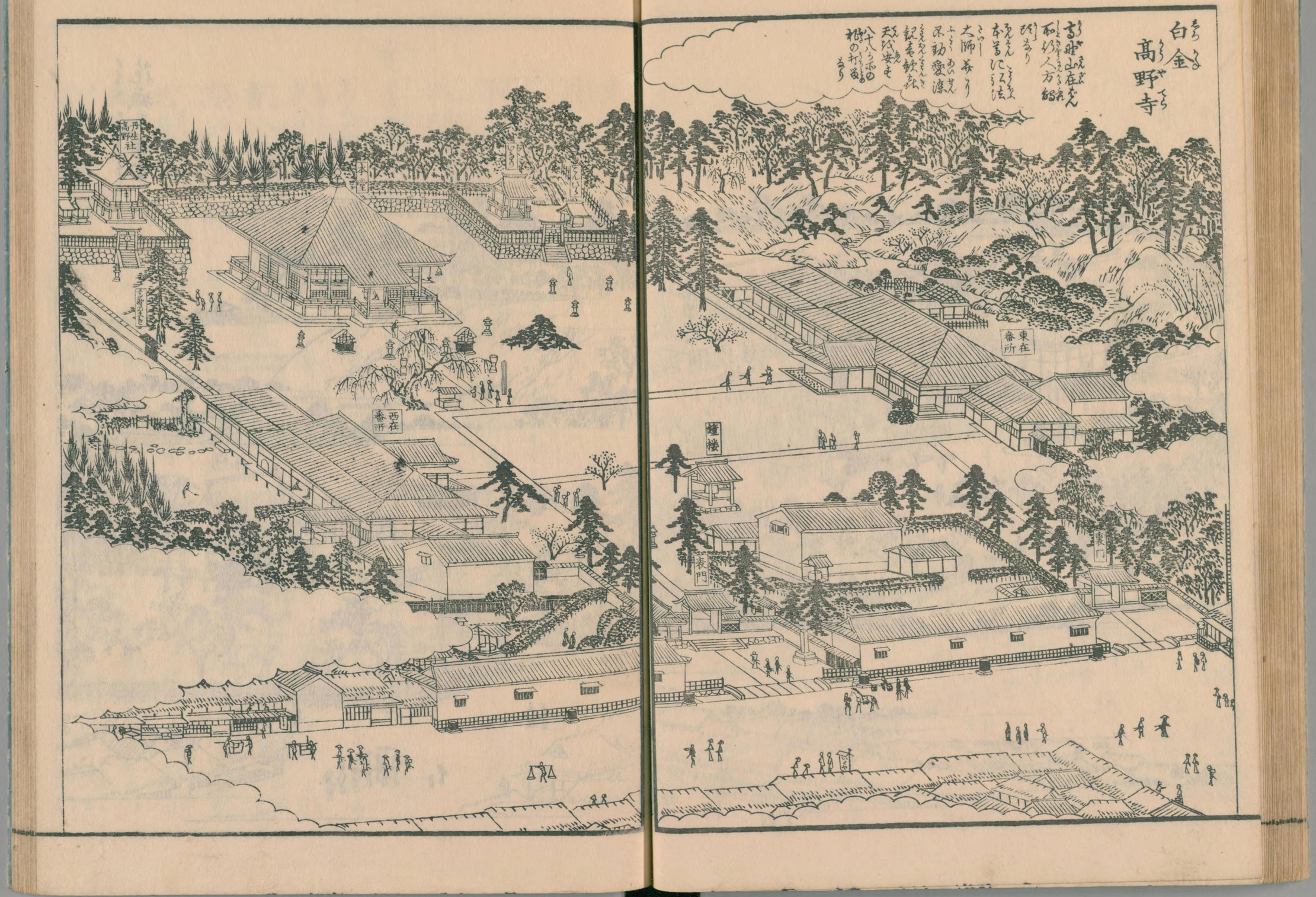
花城天満宮　同所南の方にあり松久寺といふる禪林に安置に
神躰（御長三寸八分）菅公の御作なりといふ相傳ふ仁和二年菅公四十
二歳になりたるゆゑ春除厄の為に自彫刻しなり（十五歳の時御念願成就の為造らせ
なふ一寸二分の十一面観音大士の像を以て腹籠とす今ハ別に安置しなる）又云此像ハ延喜元年大宰帥に左
遷せられ彼地に至りたるゆゑ頃河内國土師里に在せ御叔母君の
方へ立寄らせなひ御紀念にとゝくなせられし肖像なりとなり
文禄の頃加藤家の臣山田氏某より當寺に安置しなりたるとなり

英一蝶翁墓　同所より二町ばかり南の方二本榎の通り左側兼教
寺にあり一蝶翁姓ハ多賀氏諱ハ信香一名を朝湖といふ暁雲
翠蓑隣樵等ハ其別號なり幼より畫法を狩野安信に受
尤新意洒落にして後一家をなせり然に元禄中事に坐して
豆州三宅島に謫せられ居る十餘年其技益進む宝永己丑赦

松秀寺



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用



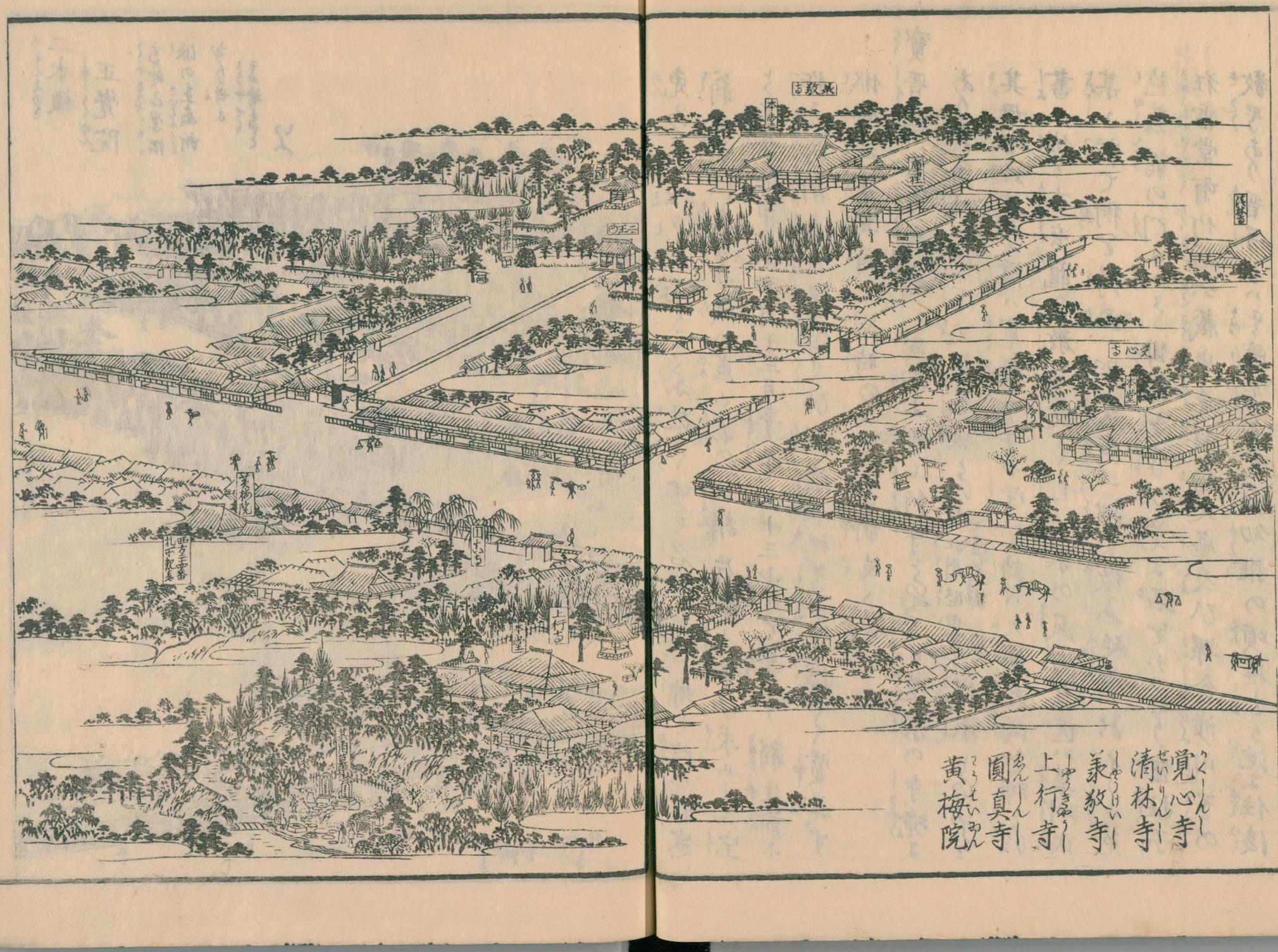
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

免ありて江戸に帰るこゝに於て始て名を英一蝶と改め北窓翁と号ハ夫より後ハ畫く所の尺絹片紙人爭ひ求めて宝とも享保甲辰正月十三日亭年七十三にして卒す翁生前に作る所の朝妻舟畫讃及ひ朝清水記等世に傳へて賞美す俳師芭蕉其角と同時の人にして明友ことも

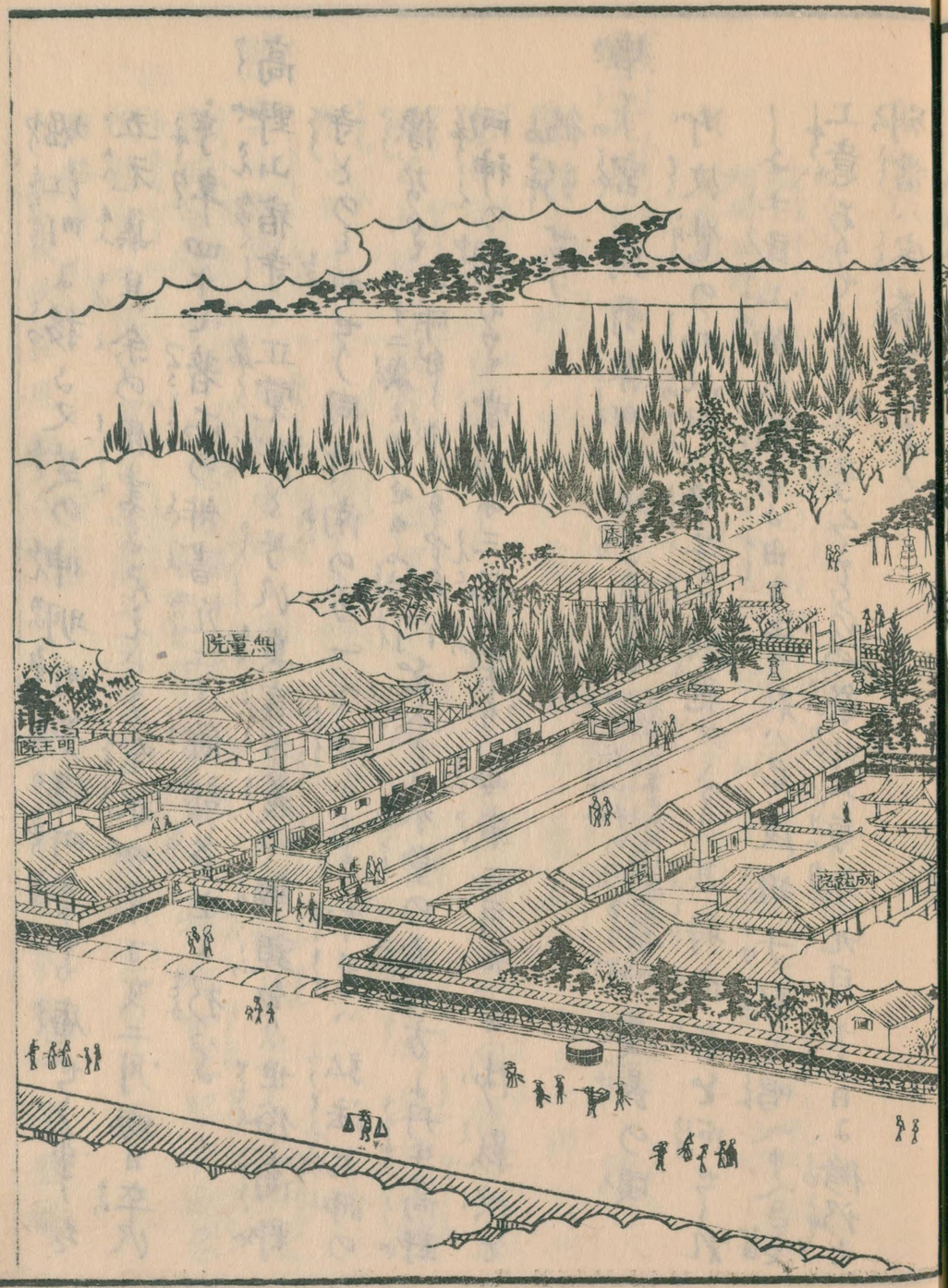
寶晋齋其角翁墓　同向ふ側上行寺といへる日蓮宗の寺境にあり其角姓ハ竹下父を東順といふ江州堅田の人医を業とも摸本といふ其母の姓なり儒ハ寛斎先生に学ひ詩ハ大巓和尚を師とし書ハ佐々木玄龍の教を受て自一家の風あり医ハ草刈氏某に就て術を得画ハ朋友英一蝶に倣ふ延宝ありし免芭蕉翁の門に入て俳諧を学ひ竟に名をなせり雷柱子狂雷堂有竹居六蔵庵善哉庵文庵及ひ螺舎渉川等の数号あり晋子とハ其戯号なるべし幼稚の頃ゆゑ池に住後

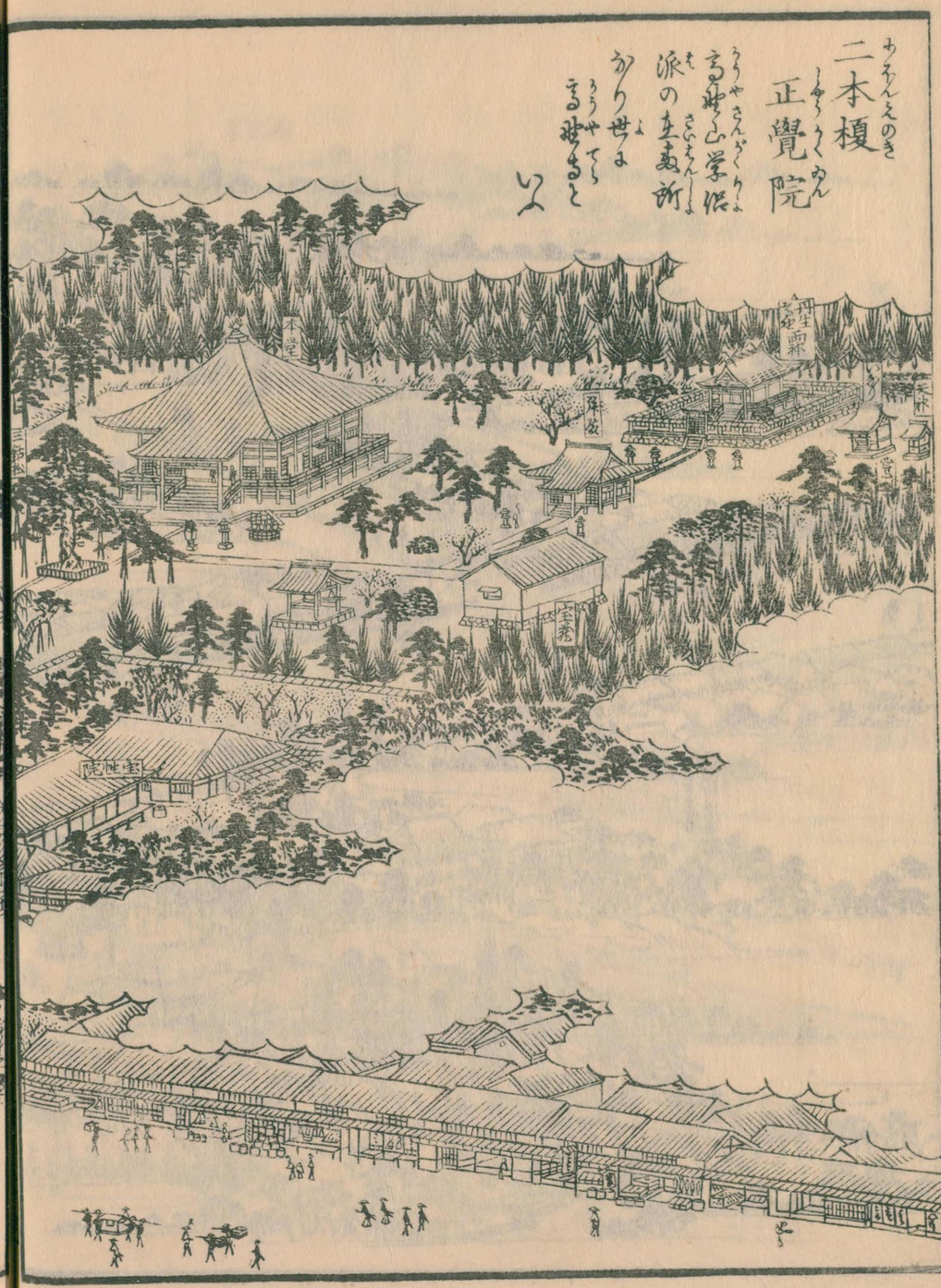
花城天満宮

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

堀江町に移る又芝の神明町茅場町等にも庵せられ
五元集其余の俳書にみえたれ宝永四年丁亥二月晦日卒に
享年四十七著名の俳書凡二十餘部各世に行はる

高野山宿寺　正覚院と号に真言古義の觸頭なり世俗高野
寺とのみ称せり同所南の方一丁斗にあり本尊ハ弘法大師の
像なり四十二歳にあらせ給ふ時大師自ら作りましと云門を入て本堂の右の方に丹生高野
両神の祠あり堂前に三鈷松あり毎歳三月廿一日御影供を
修行せり

雉子宮　同所猿町の坂口にあり此辺谷山村の内なり或官家の書に北品川領大崎云慶長の頃
御放鷹の時此社へ雉子一羽飛入たり其時神名を問せられ
しに土民山神の祠なる由申上られハ已後雉子宮と唱へ申へきを
上意ありてよりかく号くるといふ祭礼ハ毎年九月十五日に修行せ
別當ハ宝塔寺なり

鳥の社　雉子の宮にかく

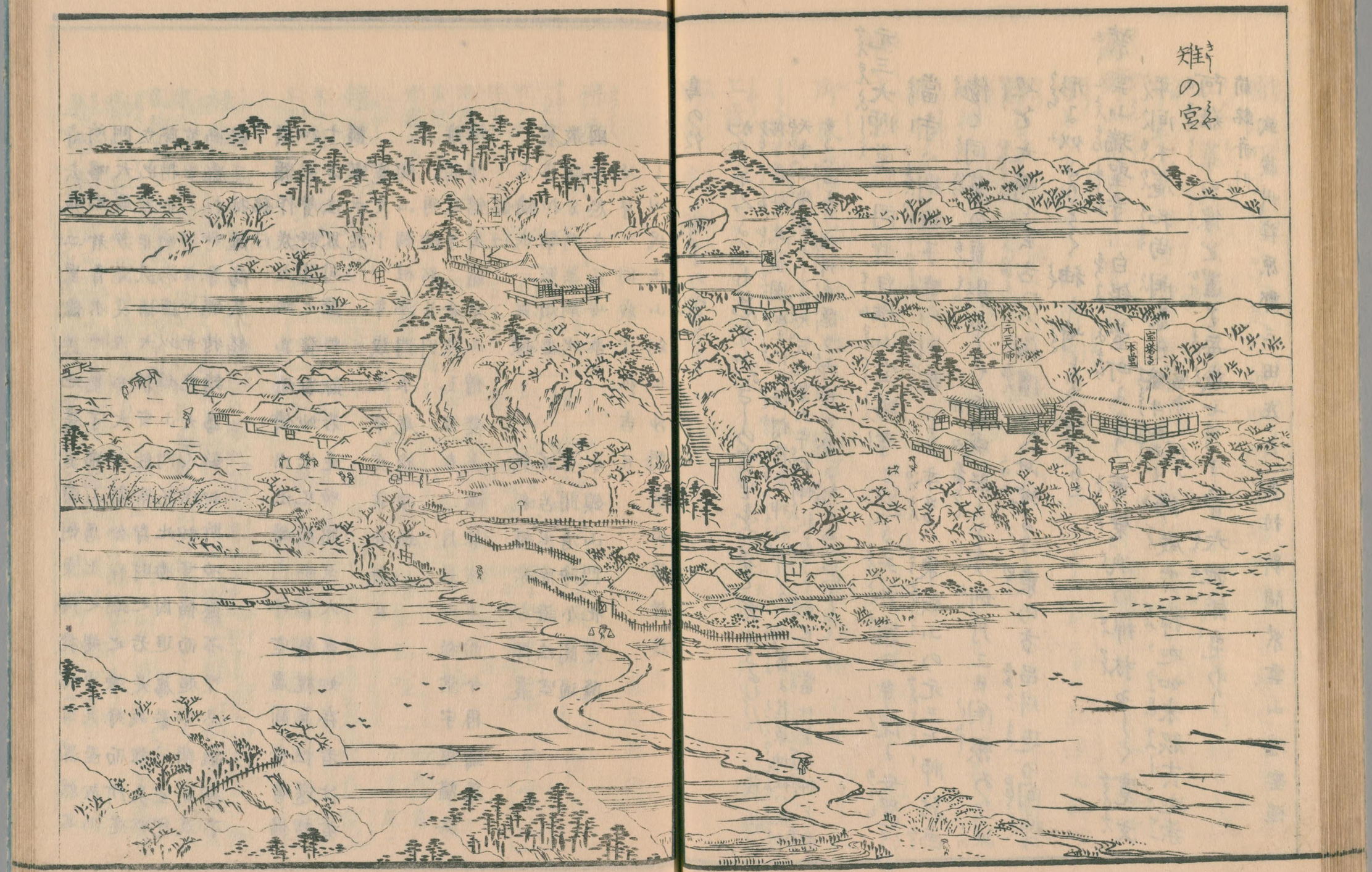
かりにくるくも名をもきしの宮里をたれ宿さくるむらん　茂睡
按に當社ハ武蔵國風土記に所謂荏原神社なるへし同書に荏原神社ハ祭神
天手力雄命にして天智天皇六年始神礼ありと記せり當社を山神と称
するハ旧より信州戸隠の御神を祭る所にありしなるへし

元三大師堂　同所白雉山宝塔寺といふる天台宗の寺院に安置に
當寺ハ則雉子宮の別當たり本尊ハ東叡山の元三大師の画
像と同筆の真影にして霊威照々たり例月三日開帳あり此
辺を大崎と云古へハ海濱にて此地より東の方品川迄の間袖の
形に似たりとて袖ヶ崎とも呼へり

紫雲山瑞聖寺　白銀臺町にあり黄檗派の禪林にして寛文
年間木庵和尚開基を鐵牛和尚も當寺に住す佛殿にハ釋迦如来脇士ハ迦葉
阿難等の像を置き毎歳七月十五日大施餓鬼あり

前銘并引
武蔵州荏原郡三田庄白金村新開紫雲山瑞聖禪

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

寺去城二里餘其地廣莫前朝東海後接目黑然其
所唱始者青木甲斐守端山居士之竭力矣至於山
門大殿方丈及左右大小寮舍皆端之諫緣而所建
立也然非夙植大根安能捨身財之若是哉茲長松
院捐金鑄洪鐘以鎮山門託此勝因追薦嚴父空印
老居士慈母心光院夫人以助冥福而超妙樂并及
幽靈村野等魄特請爲銘如斯功德不可思議即不
辭才拙謹爲其銘

銘曰

須彌作炭大地爲鑪鑄出洪鐘內外空虛圓音普徧
扣擊聲舒聞之發省妙悟丸祛幽冥超脫真性還初
十方法界同證無餘若是功德至大奚如存者往者
福寧永於

寬文十一年歲次辛亥孟春穀旦

開山嗣祖沙門木庵瑫謹銘

再鑄銘并引

維時延亨二歲次乙丑春二月羅回祿堂宇燒燼洪
鐘湧鎔矣籍是山僧發志願募諸方而今再鑄焉

銘曰

一火鑄成一巨鐘
晨昏扣擊解煩夢
教體分明無漸次
國家悠久民安泰

延亨二同歲中秋吉旦
十四代住山嗣祖沙門明祖眼謹誌

鑄工　小幡內匠　藤原勝行

佛殿　額

二重家根の軒に掲く
釋迦佛を安む
臨濟正傳三十三世
黃檗木庵瑫山
僧書とあり

大雄寶殿

延宝辛酉
吉旦開山
木庵瑫
書とあり

瑞聖寺

聯　天王殿の左右の柱に掲ぐ
木庵瑫書と
あらしくり

鐘樓

開山
木庵
書あり

軒に掲ぐ
寬文辛亥正
月吉日立開
山嗣祖沙門
木庵書とあり

門開長見江山靜
地勝不嫌車馬喧

天王殿　佛殿の前の方
石階の上にあり

額

紫雲山

內に經山寺の布袋
和尚及び帝釋四天王
等の像を置り

節竿旗
佛殿の前
左右に建る

聯　同堂內の
左右の柱に掲る
壽山の書

索雲堆惹現慈容
瑞聖門中輝妙相

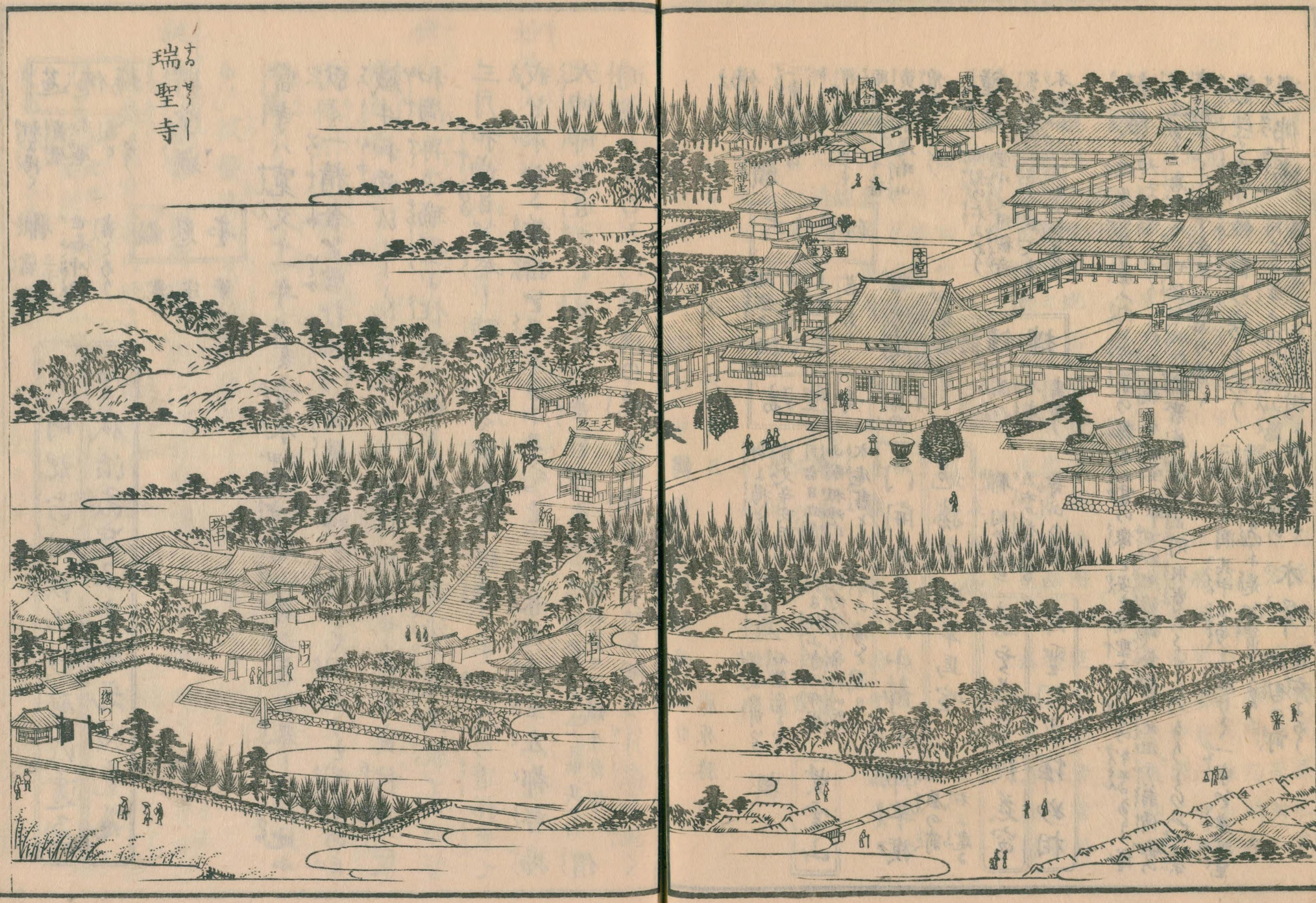
經藏　佛殿の左に並ぶ內に楞嚴の釋迦如來の像を安む瑞聖寺の昔の如きなり傅
大士の像もありこの經藏は延宝八年下谷池端錦袋圓の元祖了翁僧都の
建立なり唐本の一切經を收む稻葉美濃守正則取寄らしところなりとしふ三千余
書籍をしく五千余卷を集め置く

勸学寮　經藏の傍にあり　二間に五間其中五局に儲けて一字を建披覽
学者の為に是を置とあり

選佛場　同所に並ぶ內に開山隱元禪師の
像を置き左右の柱に聯を掲く

木犀　佛殿の前
左右にあり

瑞聖寺



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

大用現前時鎖山鉄壁須透過
全機活路安不出電光猶是遅

遊佛場

軒に掲く黄檗木庵書とあり

聯 當寺三十三世若冲盈書とあり

牌堂額

報恩堂

雲宗筆

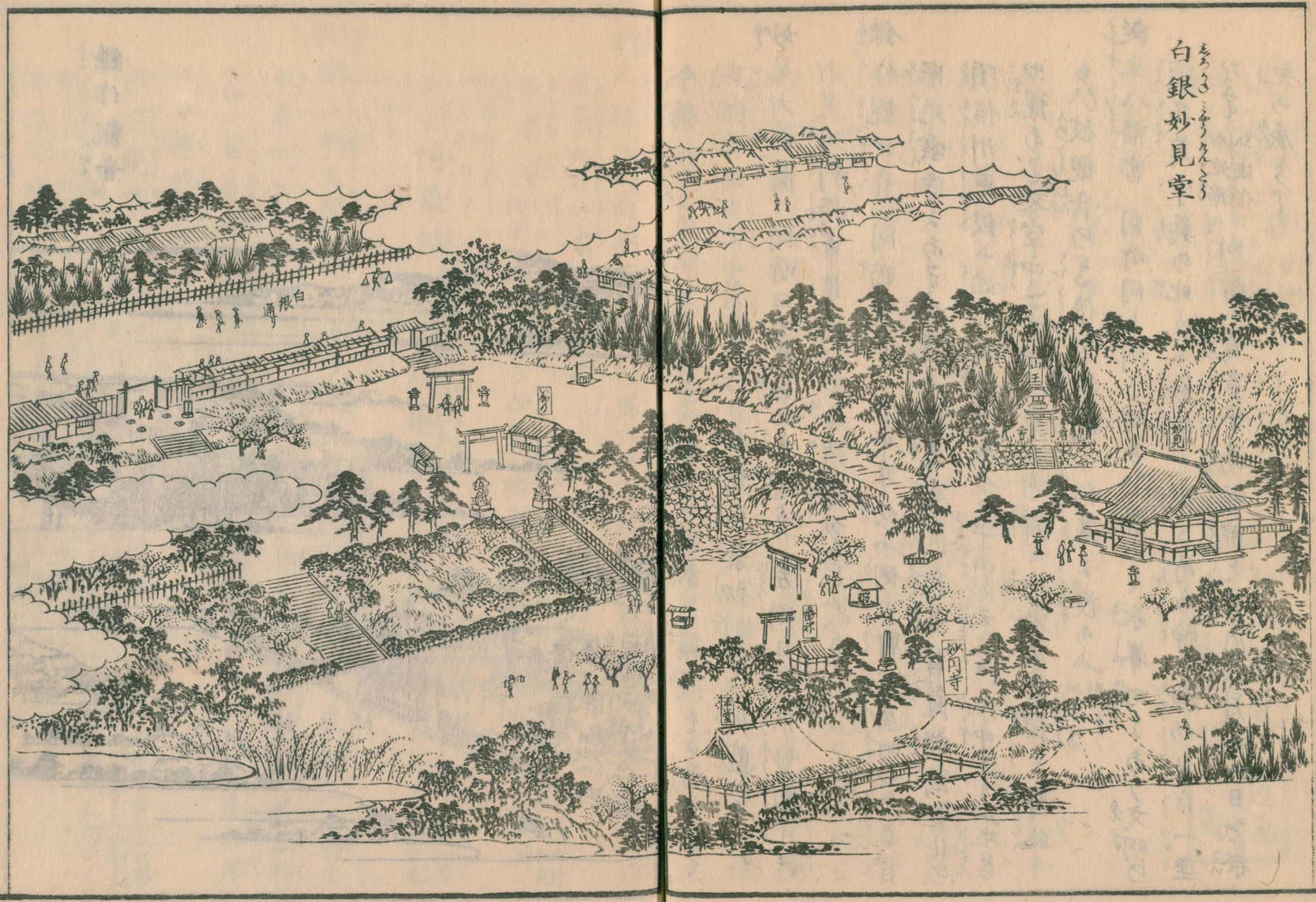
當寺ハ寛文十一年辛亥青木甲斐守と号す端山居士旨を奉して此地に就て一精舎を営む（當寺是なり）黄檗本師を請して開山とし開堂の日鐵牛和尚ばしく首座とし秉拂提唱せしむ甲寅秋黄檗和尚再ひ瑞聖に住師に命しく分座説法人天悦服す乙卯三月和尚旨を奉し師を以て紫雲の継席とし遠近の道俗来て戒を求むる者指を屈するに暇ふ丁巳春大清主左都督揚大神師の道化を慕ひ三章を贈る（其一に曰臨済正宗三十三世其二曰開法長與其三曰鐵牛株印）僧明溪ゟ五百大阿羅漢の像五十餘幅あらひに師の肖像を画く今猶鎮守の宝とし當寺ハ本山の光景を摸擬する所にして其経営頗る他に異なり江戸黄檗宗最初創建の伽藍なり

妙見大菩薩　同所三丁斗西の方道より左側日蓮宗妙圓寺にあり足利将軍尊氏公の念持佛なりとゝり

鎌作観世音　同西の方一町半斗向ふ側六軒茶屋町の角真言宗光雲寺にあり相傳ふ神亀年間行基菩薩諸國遊化の頃信州更級に始て掛錫しかに平山と云所の池中より此本尊出現あり又空中より化人あらはれ鎌と御衣にを持て降臨しかひ彼観音の尊像を彫刻し行基に授かふ（此本尊是なり）

誕生八幡宮　同所同し側一町斗を隔つて永峯町にあり文明の頃筑前宇美の地より勧請し祭る所の神ハ神功皇后一座なり（本地佛ハ弘法作）別當ハ真言宗高福院と号し八月十五日を祭祀の辰とす

白銀妙見堂



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

鎌作觀音

行人坂　同所同西の方目黒へ下る坂を云寛永の頃湯殿山の行者某大日如来の堂を建立し大圓寺と号ひ　此寺今ハ亡ひたり

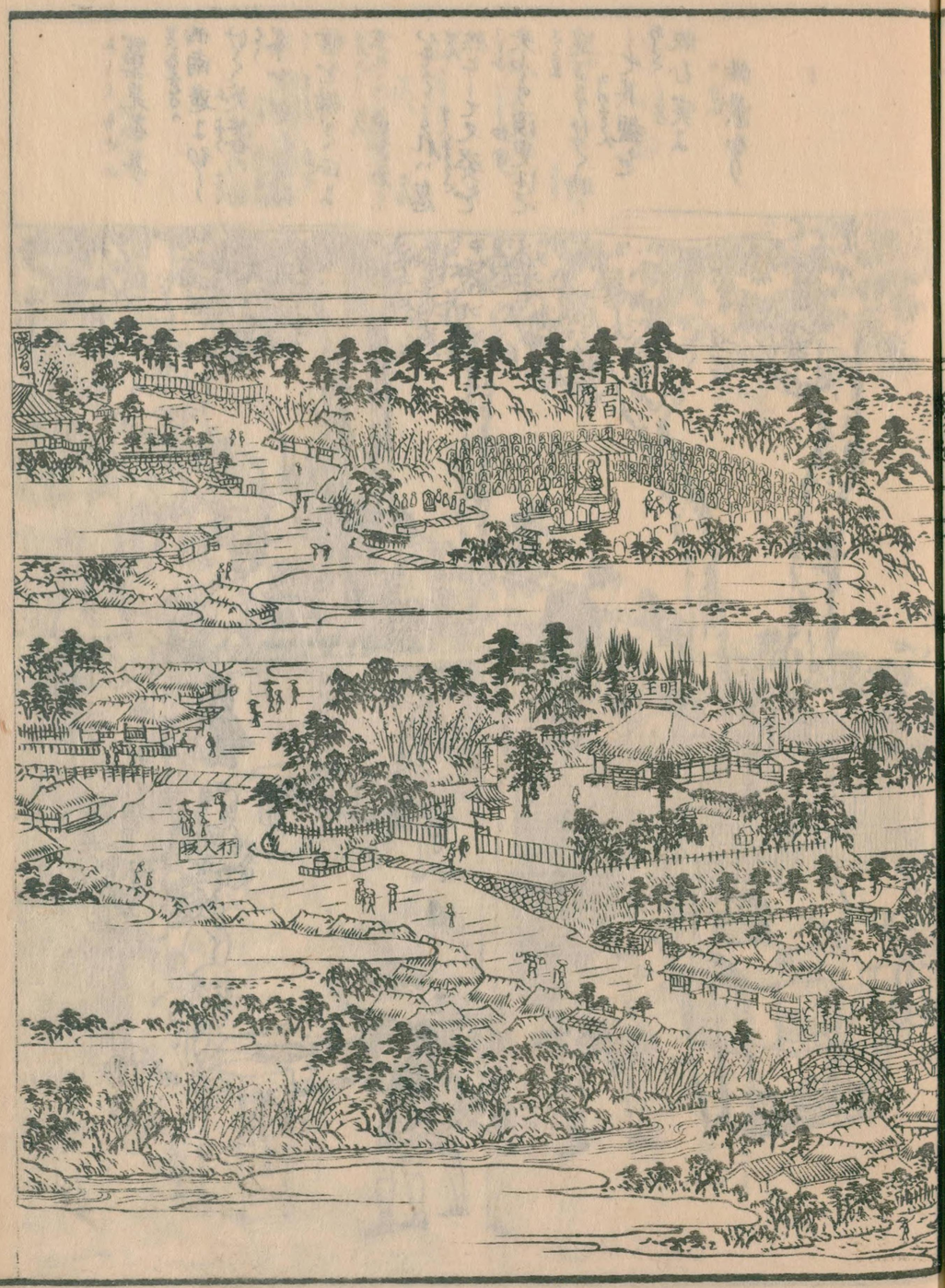
般若塚　同坂の半道の側にあるも延享三年縁山清林院の木食心誉一道和尚往来の大地成就のゐるゆゑ般若心経三千巻を書写ありて此地中に埋蔵せられし印の碑なり

五百阿羅漢石像　同道の左にあり明和九年壬辰三月二十八日二十九日両日大火に焼死せし者の迷魂を吊ひむかゐある人是を建立せしといへり

松樹山明王院　同所坂の側にあるも天台宗にして東叡山に属せ本尊阿弥陀如来脇士観音勢至を安置せり岡山を栄運法師といふ常念佛の道場にして頗る殊勝なり毎月四日報恩念佛百万遍修行あるも　此常念佛ハ西連といへる沙門の発願なりとそ

子安観世音　弘法大師の作にして長州檀浦出現の霊像なり元禄元年六十六部納経の修行者笈佛にて熱夢を感ずるの後永く當寺に止めなりしとそ女人難産を救ひ給ふとて當寺より秘符を出せりまた什宝に子安石と云あるも當寺主仙順といへる沙門信州仁久郡三塚村より感得せりと云

辨財天祠　同境内にあり本尊ハ弘法大師の作にして江州竹生島弁天の告によりて彫刻ありし灵像なりといへ



夕日岡
行人坂

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

富士見茶亭

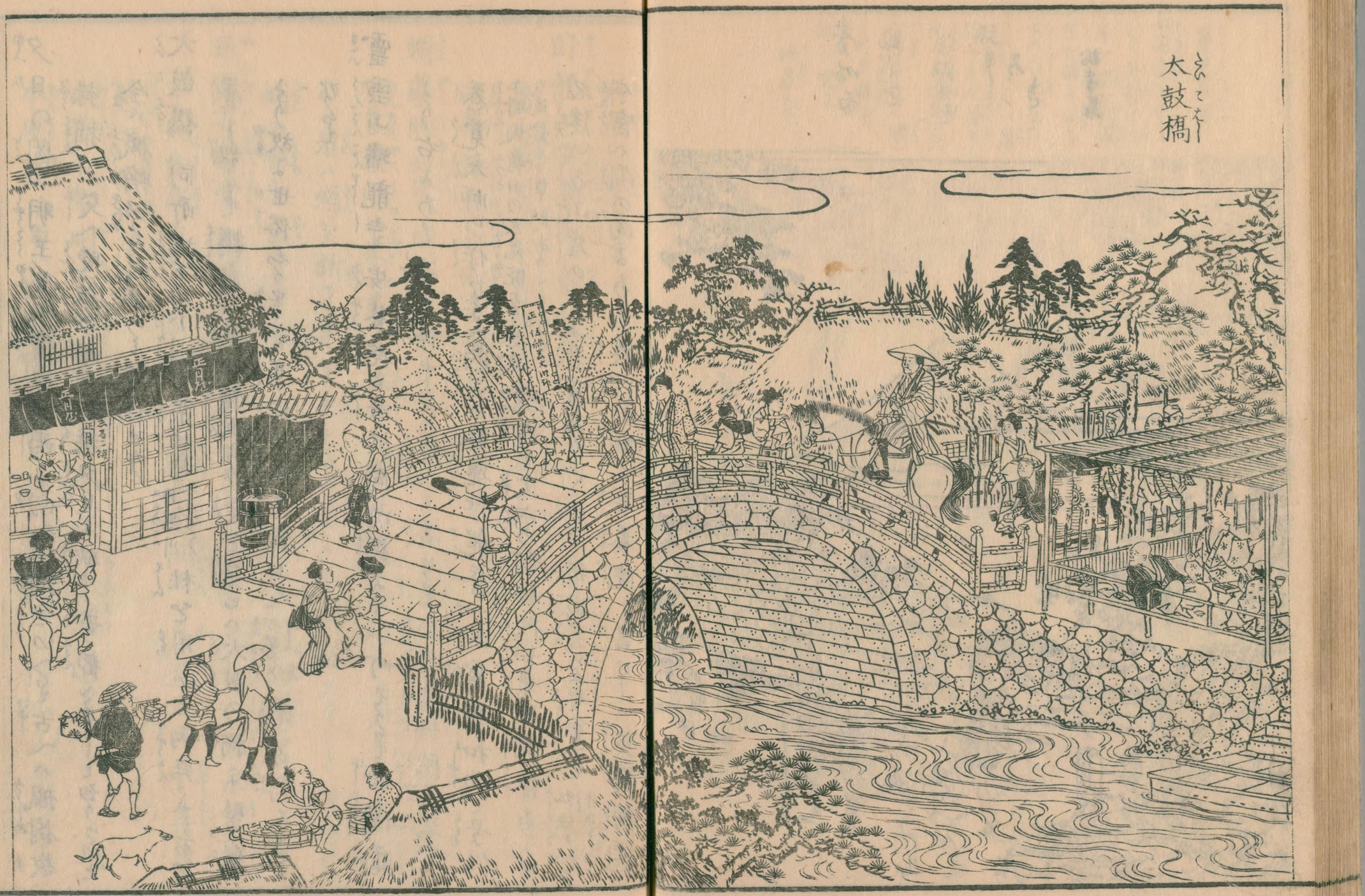
西南遥に聞しけく芙蓉の白峯を望む風纖雲を掃て正に玄冬の色をあらはせるとこれハ忽然として又姿を失ふの須臾はて定るなく時として其観を改む実に佳景なり

旁時雨
ぬしを
こぬりそ
却りしそき

桃青翁

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

太鼓橋



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

夕日の岡　明王院の後の方西に向へる岡をいへる古へハ楓樹数株梢を交へ晩秋の頃ハ紅葉夕日に映し奇観なりしとありされと今ハ楓樹少く只名のみを存せり

大鼓橋　同所坂下の小川に架せる（目黒川といへり）柱を用ひて両岸より石を畳ふせして橋とす故に横面より是を望めハ大鼓の胴に髣髴なり故に世俗しか号く享保の末木食上人（心誉をいふ）是を制せるとなる

靈雲山蟠龍寺　安養院と号ハ同所橋より一町ありて西南道より右にあり浄土律にして縁山に属せる本尊阿弥陀如来ハ慈覚大師の作なり開山ハ吟蓮社龍誉一雨靈雲和尚と号ハ（上野國新田の大光院より退隠の後當寺草創ありしとなり）境内に丈六の阿弥陀如来の銅像あり又後の方山崖の下に岩窟ありて中に辨財天を安置す（弘法大師の作なりといふ）本宮ハ門の向にあり惣門の額に安養院と書せしハ黄檗獨湛和尚の筆なり

臥龍山安養院　能仁寺と号ハ同所にあり天台宗にして瀧泉寺に属せり本尊涅槃釋迦像ハ空誉上人の作なり當寺ハ法華讀誦称名念佛の道場なり

蛸薬師如来　同所町家の巽の隅にあり天台宗成就院境内に安す本尊薬師如来ハ慈覚大師の作なり世俗傳へ云此本尊に祈願ある者ハ蛸を断て是を念ずるに果して利益ありとて繪馬にも蛸の形を畫きて捧く

目黒不動堂　同所の西百歩のあまりにあり泰叡山瀧泉寺と号す天台宗にして東叡山に属せる開山ハ慈覚大師中興ハ慈海僧正なり

本堂不動明王慈覚大師作脇士ハ八大童子なり

本殿額　泰叡山　後西院御筆　樓門額　泰叡山　後水尾帝御筆

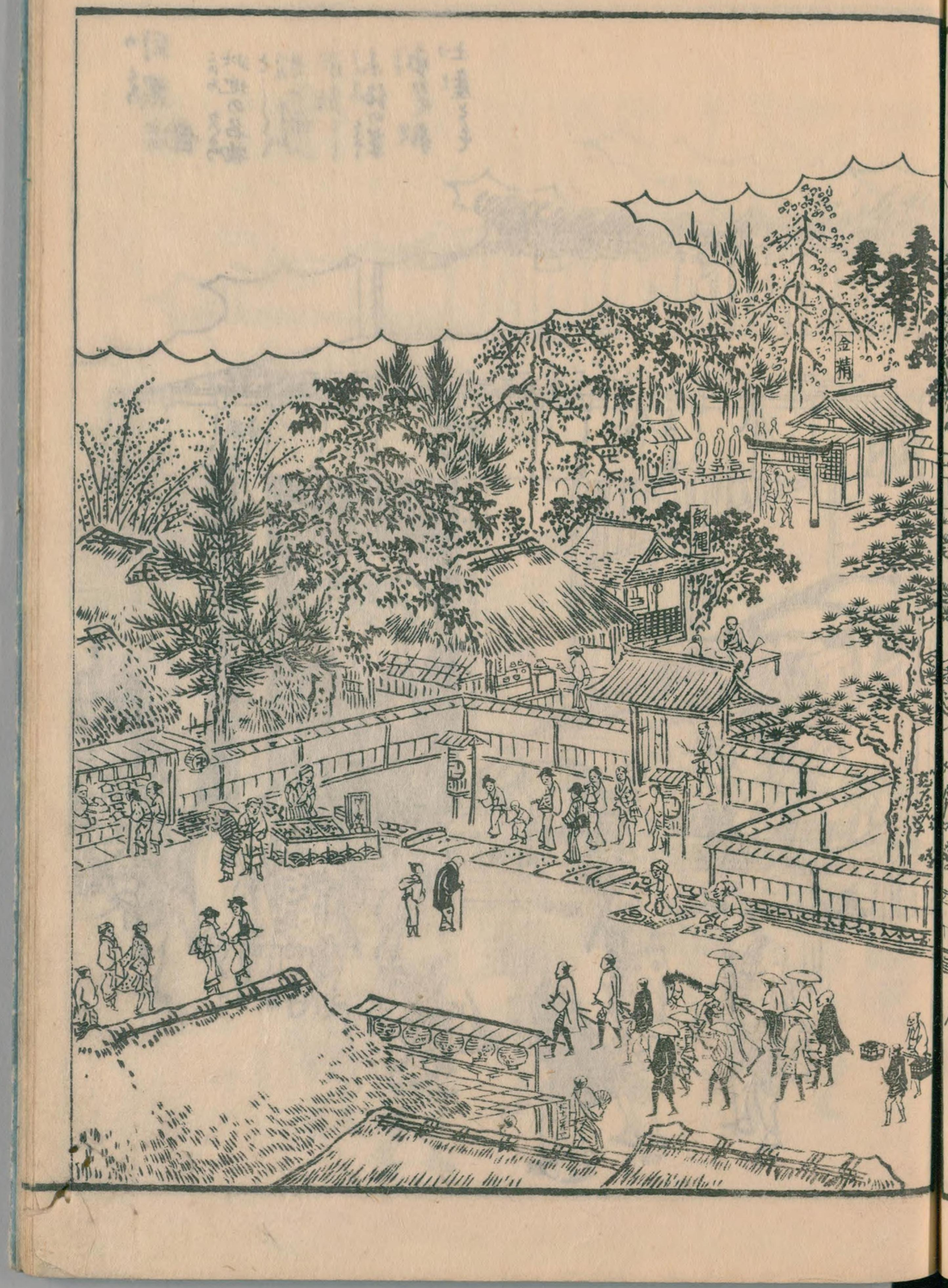
蟠龍寺
窟辨天祠

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

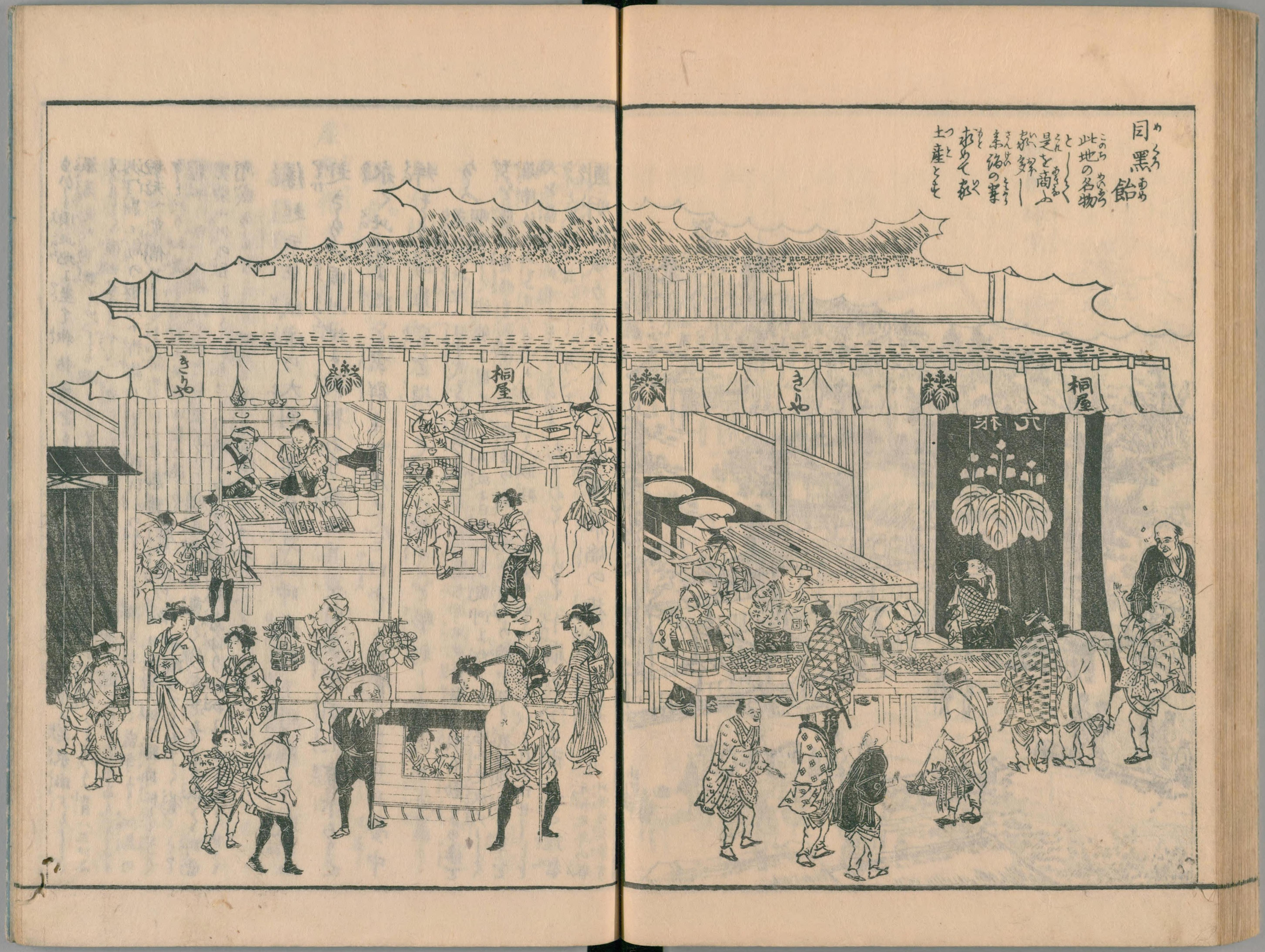
寂釋迦堂

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

薬師堂（やくしどう）



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

ゐひ一項此地より至て狭鉢をもて此地を穿ち得ること常の霊泉湧くとしも派落炎天旱魃といへども涸ることなく未八目黒一村の水田より引用ることもの一年此滝水の涸ることなし故に今も年々当寺より江島の弁天へ衆僧をして詣せしむ今八二流となれり再ひ元の如し

江島の飛天不祈請して自ら降る

寛永の頃大樹此地へ御遊猟ありし時其実栄小伝の旨ありて祈念せしむ然るに忽ち霊験ありしかば感応斜ならず此樹を鷹の居松の名をもて呼ぶ

縁起云平城帝の大同三年慈覚大師本國下野國より叡山へ赴きの頃此地を投宿あり然るに其夜の夢中明王霊示ありて永く此地を跡を垂れ群生を度せんと曰ふとそ覚ると翌日夢中拝まるゝ尊容を摸して今の如くを彫刻し当山を安置し

或人云此地は日本武尊を鎮祭ありし慈覚大師此地経歴の頃不動尊の像を彫刻しまし神躰を擬せしむる其故は日本武尊駿河より相州へ渡り給ふ時山賊等野火を放ち焼殺さんとせしに明王の形像を以これを免れ給ふと云ふ千歳の今も甫ふと理智権現の威力広大なるを以て迦楼羅焔の徳用深妙なり

元和元年の春此地の祝家より猛火を除き給ひし時の御立願ありて滝の下を掘りあけ結構備りしと寛永元年大将軍此地へ狩ありし同十一年再興ありしより詣人常に絶ず殊更正五九の月廿八日前日より終夜群参詣群をなせり又十二月十三日は煤拂ゆゑ開帳あり是も前夜より参詣人をいとなむ栗餅飴の類ひを鬻く家多し

左右貨食店軒端をつらねて普化宗金洗沢ゆやの虚無僧寺　同所門前大路の西よりあり

東昌寺と号して本寺あり或風呂屋とも

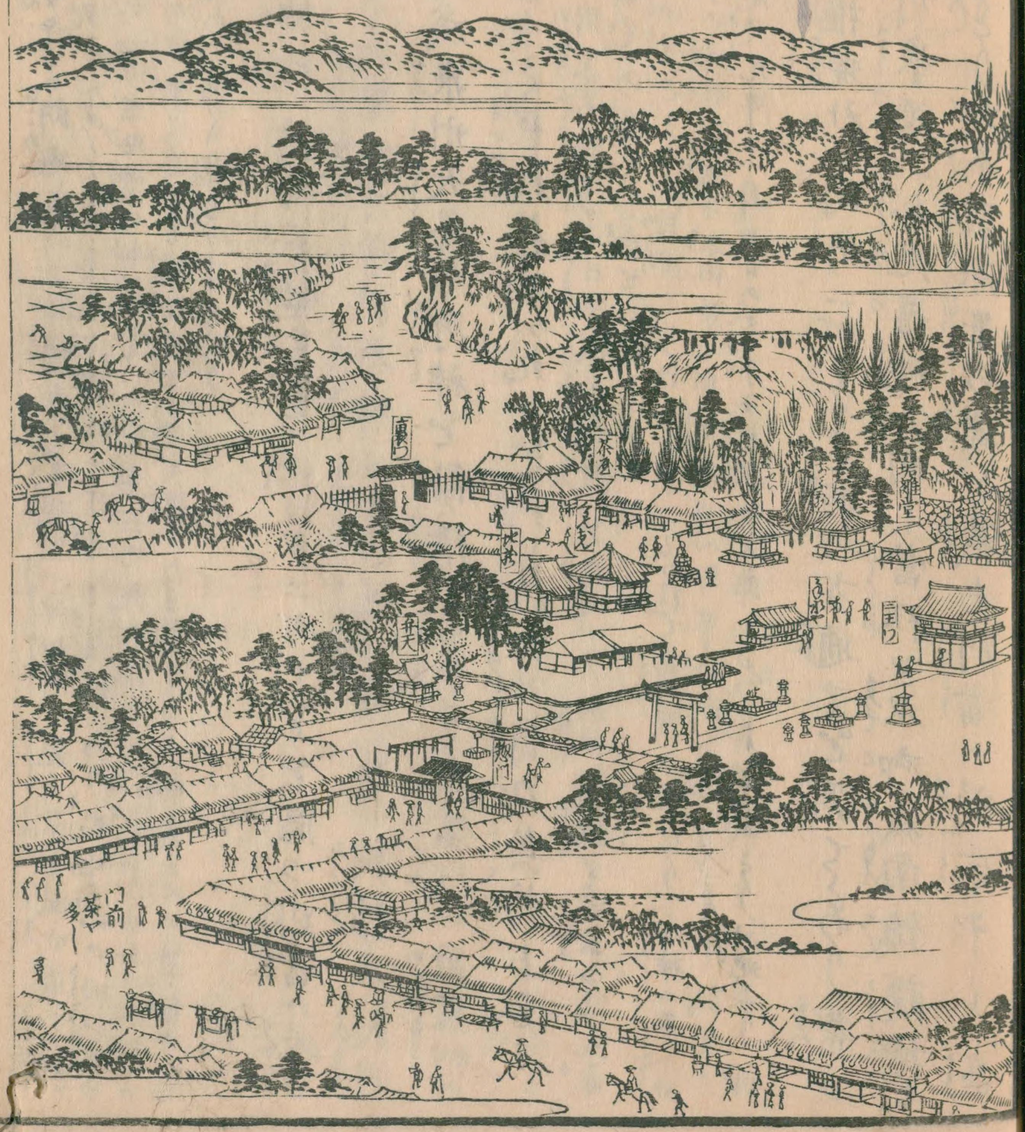
金洗沢　活惣流　西向流　安楽流　水戸八筒寺をつかふ　惣本寺の番所と唱ふ

浅草　黄金堀　小路　小金一月寺　牛込早苗田　青梅鉄法寺　芝金杉神奈川　西光寺

雍州府志に虚無空寂を宗とす故に虚無僧と称せり

又薦僧とも書せる意は其徒常に諸方を経歴して至る和筵薦を座して云中世暮露と云ある如く職人尽哥合にもこれをとゝめたり

目黒不動堂（めぐろふどうどう）



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

洛の奴安寺よ朗庵とゝなる異僧あり紫野の一休和尚よ親ゝ常よ風穴道人と称し尺八を吹くなりしより是風穴瀧并の作略を慕ひしより始宇治の吸江庵ゟ住す世ゟ云不の虚空僧の本寺あり元東福西州風穴道人の門弟ゟ普化和尚の流派とゝも風穴のゟ題を取ゟたるとあり明恵上人の華厳宗ゟ兼好法師のつゝもく草紙ゟゟ

大鳥大明神社　同所不動堂より北の方二町ばかりを隔つ別當ハ天台宗ゟく大聖院と号ゞ祭神日本武尊一座なり　桐佛ゟ大同元年丙戌泉州大鳥の御神を勧請しなるとゝ当社ハ目黒村の鎮守ゟく祭礼ハ九月の九日を例とゝ此日角力奥移あり

（附）山辺を北の方へ行ゟ目黒不動堂ゟ日本武尊の説を交へゝハ此社を誤まりて云ゟゝん乎原北条家の所領役帳ゟ太田源七郎島津孫四郎等此地を領ゟ永禄二年小田東鑑ゟ建久元年十月七日の条下ゟ目黒弥五郎とゝる名を載ゟり此地より出る人ありしゝ

金毘羅大権現社　同所二町ばかり西の方通りを隔てゝあり祭る所讃州象頭山金毘羅神と同一當社を以御城南鎮護神と称しなり九条家染筆の額を蔵を別當ハ禅宗ゟく高幢寺とゝ境内ゟ難波の梅又曽根の松と称する樹あり

千代ゟ崎　渋谷宮益町より目黒長泉律院へ行道の傍芝生の岡をゝ佳景の地ゟゝ永峯よ属せり絶景観とゝゟ松平主殿矣の別荘の号ゟく閑寂無為自然よ其地よ應も

高峰山長泉律院　同所六町ばかり西の方ゟあり浄土宗ゟく縁山前大僧正成誉大玄和尚を開創の主ゟゝ不能律師第二世とゝも第三世を徳門和尚とす

（師の肖像ゟ在世の時弟子恵徹彫造ゟる）

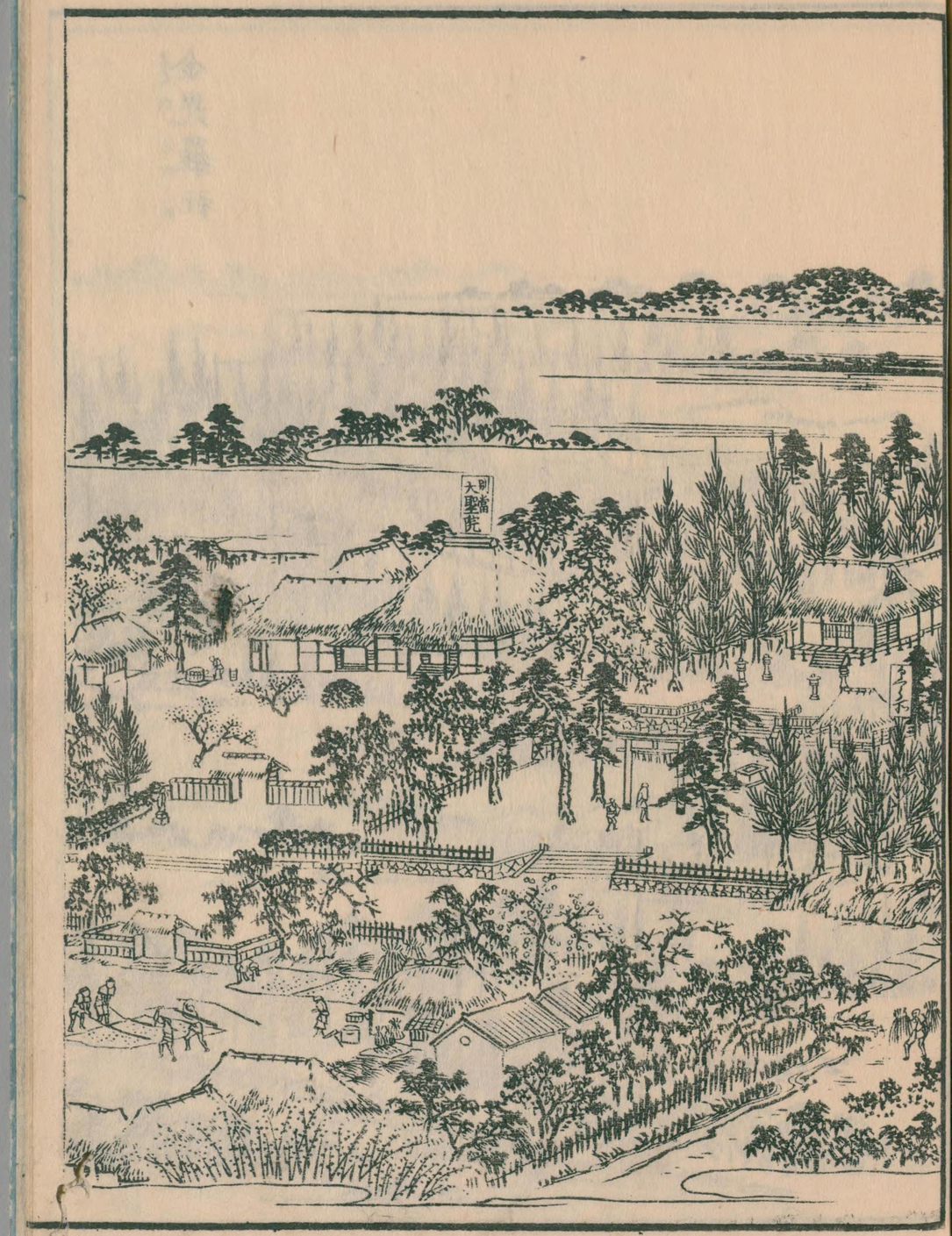
本堂　山の半腹よありく丈室を去ること数十間の田廊を架しく通ゟ明和五年戊子初て此佛殿を営建ゟ

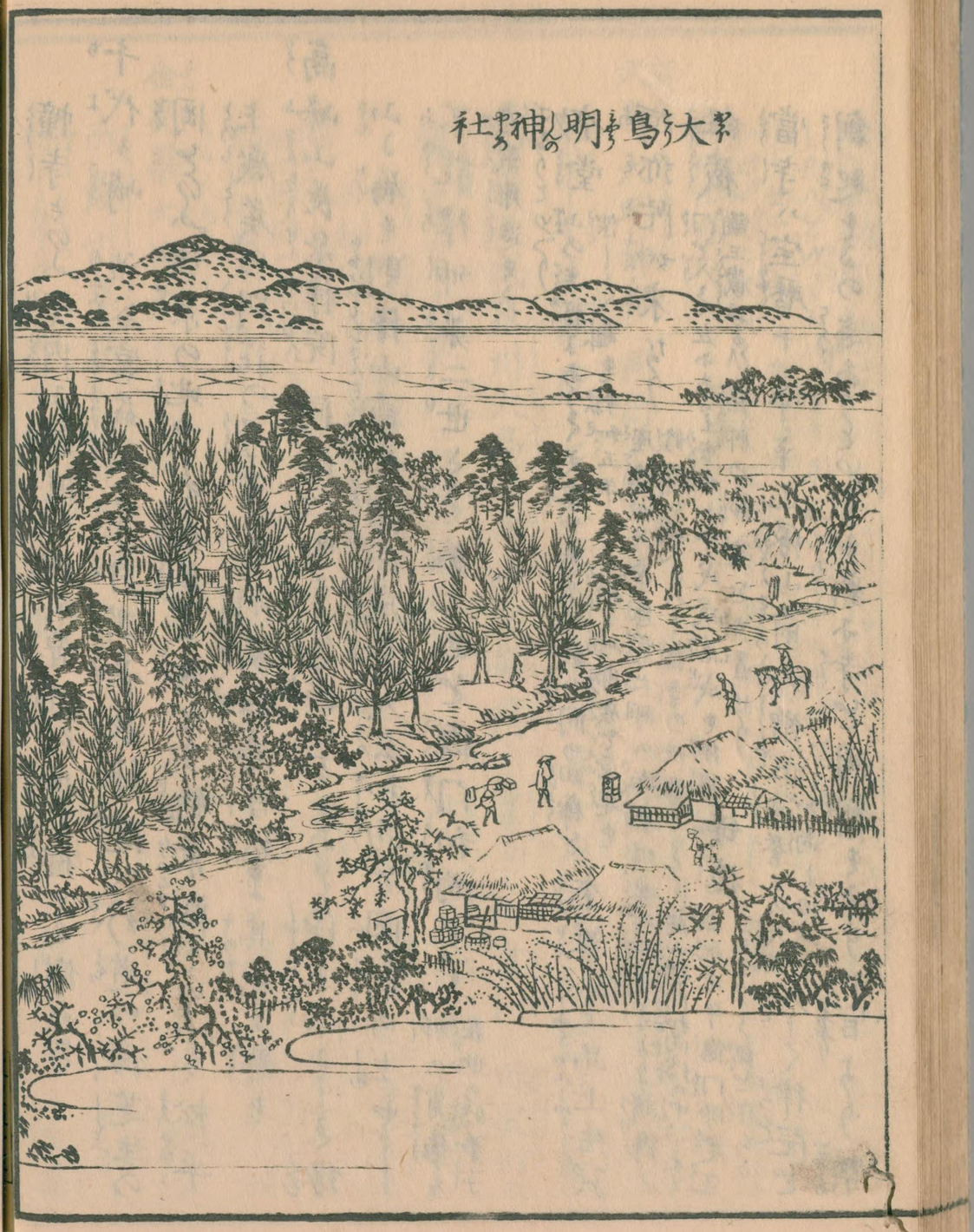
阿弥陀如来なり　座像四尺余慈覚大師の作泉州堺の心蓮寺より請得ゟく当寺の供像とゝるはし開山徳門和尚像の中にこゝ修復ゟ加へ安永七年戊戌落成ゟ在世置ゟ

経蔵　門ゟ入ゟく左ゟあり修禅師の鈔疏を安ゟ三蔵および諸師の鈔疏を安ゟ

鐘楼　安永元年徳門師建立銘ゟ作らる

當寺ハ宝暦十一年辛巳縁山前大僧正成誉上人大玄和尚とゝゟ久ゝく律院とゝ創起ゟるの志ありとゝゟゝ新ゟ寺ゟ開創ゟるゟハ官より禁





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

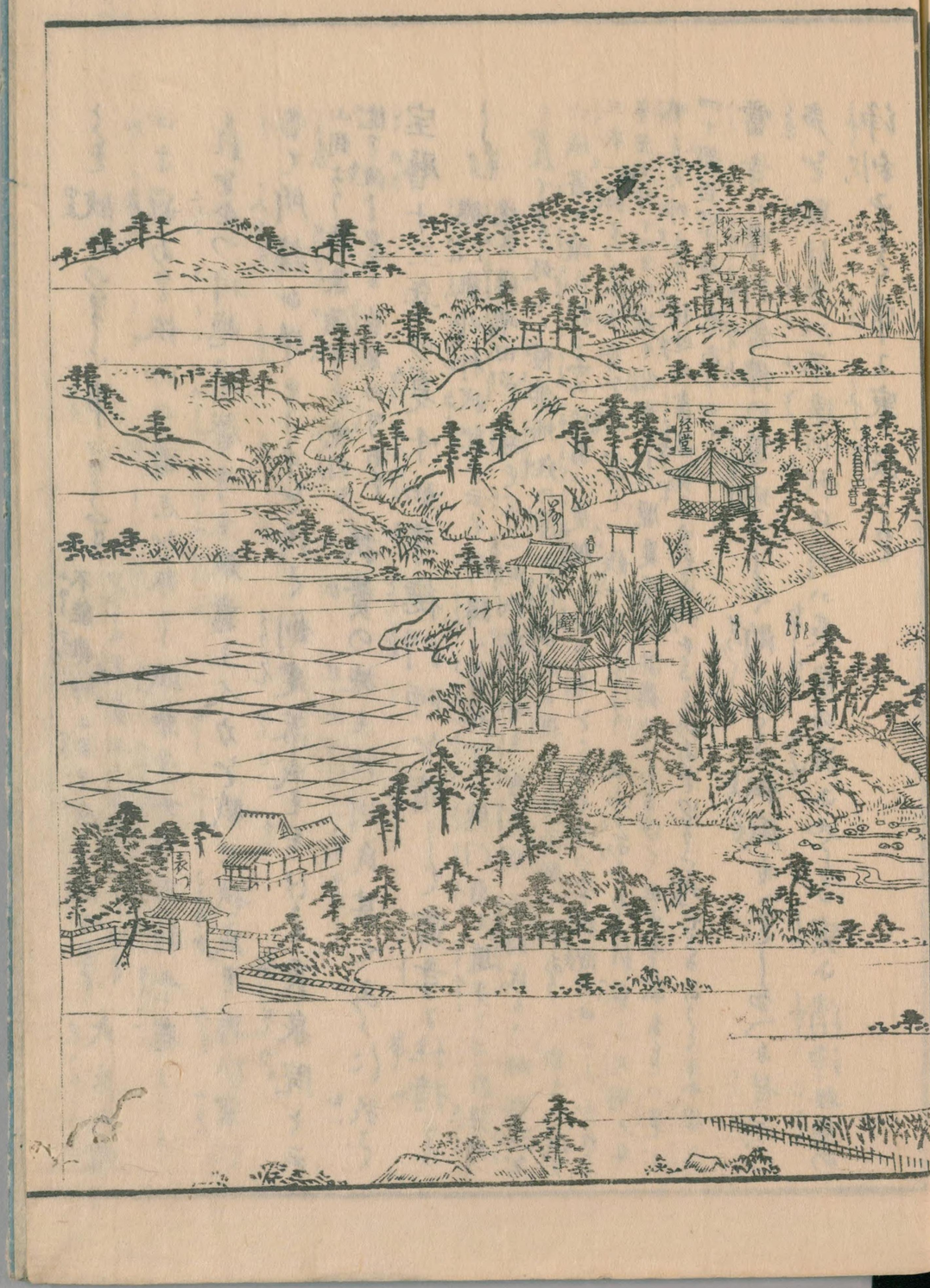
ガラス使用

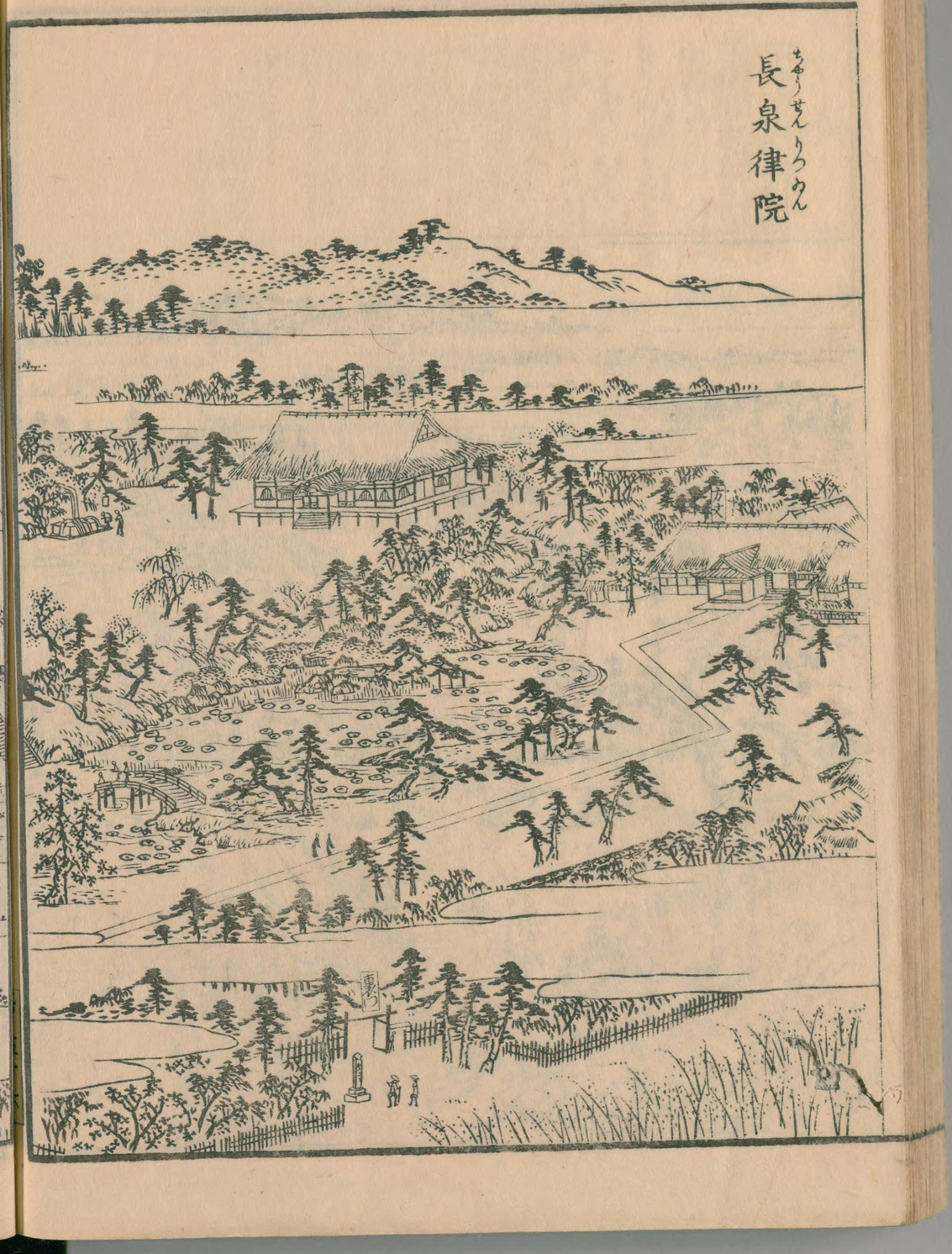
金毘羅社（こんぴらしゃ）

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

839
20
57

とも故にいまゝ事なりす不能律師に至りて営建既になると大玄大僧
正ハ寂あれ依師の遺志を奉し法弟千如等百計千慮しこ
れを企つ川越蓮馨寺主教意上人力を戮せ扶成を再ひ官に
告て所請に準ずるを得て創建落成を号けて長泉院と云
山間より清泉涌出して境内を扶費の施主北川氏某之ために於て
繞て流るゝ也あるに長泉の号あれ
宝暦十三年の夏千如等徳門師を請して當寺に住持せ
しむ徳門律師行状記に云く師諱ハ普寂字ハ徳門自ら道光と号ハ勢州
桑名縣増田邑に誕せ父ハ一向派源流寺主秀寛母ハ中村氏なり師襁褓を
なれてより好んで禮佛誦経の態を作常児に異にして名緇の相あり三歳字を識り
六歳書を讀ん授る所の経書一受輙ち記せ年をこゝろく師の学徳既に世にしられたり
三衣一鉢ゝつゝに唯身を掩ふのみ一銭一米ことゝなり畜ふるにあらず竟に天明元年
辛丑十月十四日化寂せ閲世七十五臘夏三十六其徳化ハあまねく世にしるにあれハ是を
略す又師生平撰述の書甚多くすべて刊せるものあるいまゝ刊せるありともに總計
四十部百四十有三巻あり云々
當寺ハ常行念佛の道場にして浙々たる松風をとゝしなべて梵唄の
声を助け去此不遠の秋の月ハ長泉の流にやとる実に清浄無塵の
浄刹にして常に寥寂たり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57
ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 839-57